

## 序 文

高崎市は、広大な関東平野の北端に位置し、群馬県を代表する中核市であります。平成の大合併により、市の人口は37万人を超え、群馬県内では最大の人口を擁する都市となりました。古来より上信越を結ぶ交通の拠点として栄え、中山道と三国街道の分岐点、上越新幹線と北陸新幹線の分岐点ともなるなど、全国有数の交通拠点都市でもあります。また、江戸時代には、高崎藩の城下町、宿場町として大いに賑わい、現在でも県内有数の商業都市として栄えています。

今回発掘調査を実施しました山名地区は、観音山丘陵が背後に連なり、西方には鐙川が織り成した「甘楽の谷」を望む、まさに古代万葉の景観を保つ地域であります。付近には国特別史跡「山上碑及び古墳」をはじめ、市指定史跡山名古墳群など多くの史跡を有する地域として知られています。発掘調査では、古代から中世の遺跡を確認することができ、本地域が、古より先進文化の素地を築いてきた様子が明らかとなりました。今回の発掘調査により得られた資料を後世へと伝え、古代史解明と郷土理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただきました地元関係者の皆様、関係各機関の方々に、心より感謝申し上げます、序文といたします。

平成29年3月

高崎市教育委員会  
教育長 飯野眞幸

## 例 言

1. 本書は高崎市消防局南分署建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
3. 発掘調査の事項は以下のとおりである。

遺跡番号	高崎市遺跡番号 653	
地 番	高崎市山名町 273 番地 3	
調査体制	教育長	飯野眞幸
	教育部長	上原正男
	文化財保護課長	若狭 徹
	埋蔵文化財担当係長	角田真也
	埋蔵文化財庶務担当	針井 修 (主査) 加藤志津代 (主査)
埋蔵文化財調査担当	小根澤雪絵 (主任学芸員) 田村 孝 (嘱託職員)	
調査期間	平成 27 年 11 月 16 日から平成 28 年 2 月 2 日	
調査面積	326 m <sup>2</sup>	
整理担当者	小根澤雪絵 島田孝紀 飯塚光生	
整理期間	平成 28 年 6 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日	
4. 本書の執筆、編集は小根澤が行った。第 4 章第 5 節は、島田孝紀 (文化財保護課嘱託員) が執筆を担当した。
5. 本書で使用した遺構写真は小根澤、田村が撮影した。遺物写真は飯塚光生 (文化財保護課嘱託員) が撮影した。
6. 遺構測量の基準杭設定は(株)横田調査設計に、遺構平面測量図は(株)測研に委託して行った。
7. 発掘調査の資料及び出土品は高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査および本書の作成にあたって下記の機関ならびに個人より多大なるご協力を頂いた。

高崎市消防局総務課	山名町南町内会区長	相場正雄	神谷佳明 (群馬県埋文調査事業団)
-----------	-----------	------	-------------------
9. 発掘調査および整理作業に従事した者は次のとおりである (順不同・敬称略)。

発掘調査	赤見公一	秋山文男	新井かつよ	新井任雄	荒井滋道	片原正美	小嶋明子
	鈴木 実	善如寺陽子	塚越 昇	都丸夏雄	松倉秀樹	宮寺正明	四ツ柳亘
整理作業	倉持洋子	新井智也子	田村貴久江	佐藤久子	原 祐子	原 誠二	白石政子

## 凡 例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の 1/25,000 (電子データ)、高崎市都市計画図 1/2,500 を使用した。
2. 遺構平面図の北方向は座標北を示し、座標は平面直角座標IX系 (世界測地系 2011) である。
3. 挿図中で用いる遺構の略称は以下の通りである。

SD	: 溝跡	SK	: 土坑	SI	: 竪穴住居跡	SX	: 性格不明遺構	P	: 柱穴
----	------	----	------	----	---------	----	----------	---	------
4. 遺構名は現場で付された名称を継承している。そのため SI 4・5 については欠番が生じたままとなっている。
5. 掲載遺物実測図は 1/3 を基本としているが、鉄製品は 1/2、瓦は 1/5 で掲載した。
6. 遺構土層堆積の説明に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 (財) 日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を参照にした。

# 目 次

序文

例言 凡例

第1章	調査に至る経緯と過程	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第2章	遺跡の立地と環境	2
第1節	遺跡の地理的環境	2
第2節	遺跡の歴史的環境	2
第3章	調査の方法	5
第1節	遺跡の調査・記録方法	5
第4章	遺構と遺物	5
第1節	基本土層	5
第2節	中世の遺構（溝跡／土坑／柱穴／性格不明遺構）	6
第3節	古代の遺構（竪穴住居／土坑／柱穴）	14
第4節	小結	14
第5節	SX7出土三脚土器について	32

遺物観察表

写真図版

抄録 奥付



## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図	3
第3図	基本土層図	5
第4図	中世遺構全体図	7
第5図	SD1・SD2・SD3・SK7 遺構図	8
第6図	SK1～4・12・13 遺構図	9
第7図	SK5～11・SK14～16・20 遺構図	10
第8図	SK17～19・21・22 遺構図	11
第9図	P1～10 遺構図	11
第10図	P11～15・17・18 遺構図	12
第11図	SX1～3 遺構図	12
第12図	SX4～6 遺構図	13
第13図	古代遺構全体図	16
第14図	SI1～3・6～8 遺構図	17
第15図	SI8～10 遺構図	18
第16図	SK33～37 遺構図	19
第17図	SK38～42 遺構図	20
第18図	P19～31 遺構図	20
第19図	P32～48 遺構図	21
第20図	出土遺物図(1)	24
第21図	出土遺物図(2)	25
第22図	出土遺物図(3)	26
第23図	出土遺物図(4)	27
第24図	出土遺物図(5)	28
第25図	出土遺物図(6)	29
第26図	出土遺物図(7)	30
第27図	出土遺物図(8)	31
第28図	群馬県内出土三脚土器	33

## 表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	4
第2表	中世土坑一覧表	13
第3表	中世柱穴一覧表	14
第4表	中世性格不明遺構一覧表	14
第5表	古代土坑一覧表	22
第6表	古代柱穴一覧表	22
第7表	県内出土三脚土器一覧表	32
第8表	出土遺物観察表	34



# 第1章 調査に至る経緯と過程

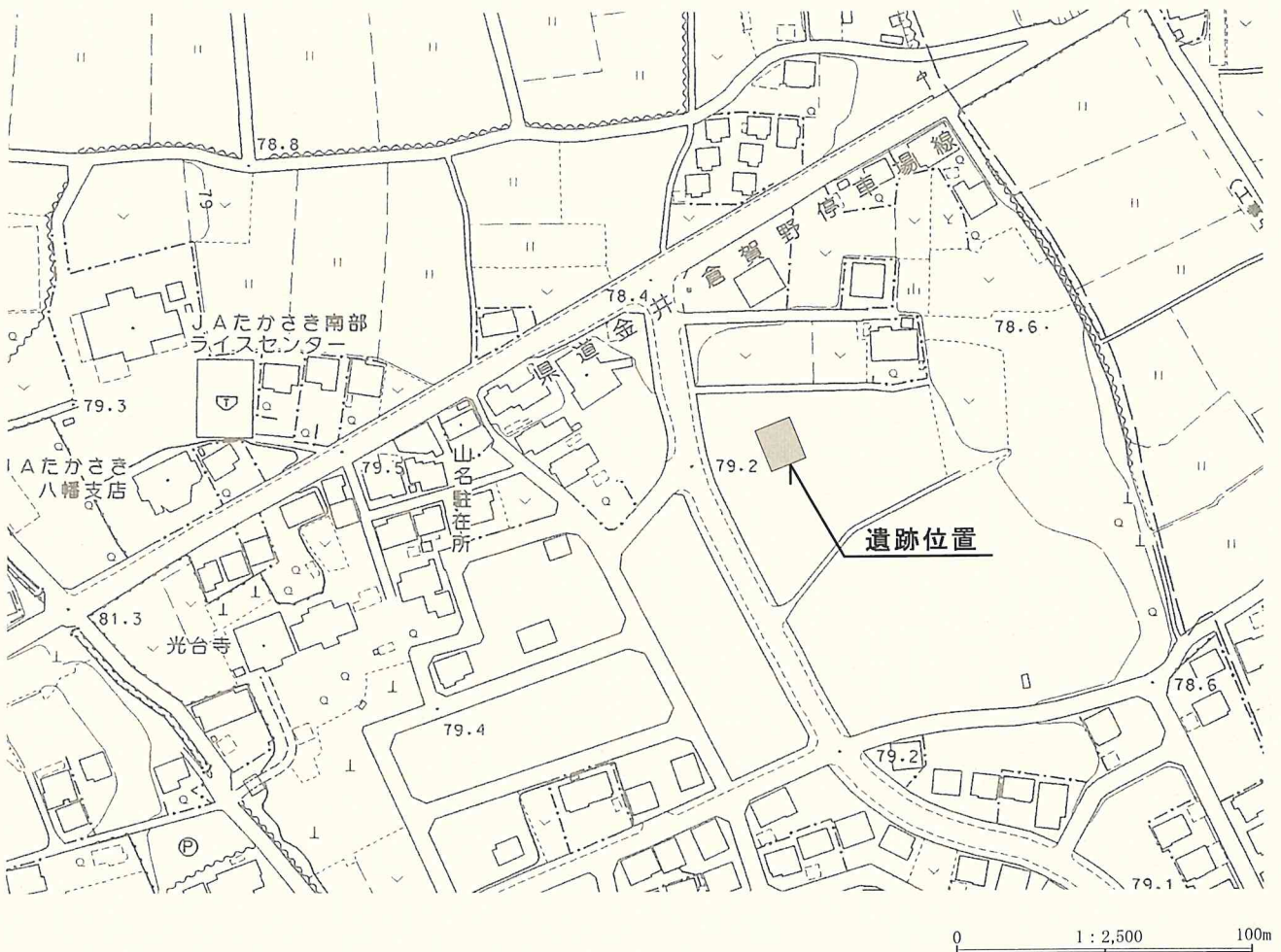
## 第1節 調査に至る経緯

平成27年4月、高崎市消防局総務課より高崎市山名町における消防分署の建設について事業が計画された。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（山名町50-8遺跡）であることから、消防局より文化財保護課に試掘調査の依頼があった。これを受けて文化財保護課は、平成27年6月3日に遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施した。調査では平安時代と思われる複数の遺構を検出し、古代の集落が広く分布している様相を確認した。この結果を受けて、消防局と文化財保護課の間で工事と文化財の遺跡保護の協議が行われたが、工事計画の変更は困難との回答で、本調査の計画が行われた。その後、文化財保護法第94条に基づく通知が提出され、記録保存のための本調査が実施されるに至った。

## 第2節 調査の経過

以下、調査記録日誌より抜粋した。

- |        |                 |        |                   |
|--------|-----------------|--------|-------------------|
| 11月16日 | 調査開始。重機による表土掘削。 | 12月28日 | 平安時代の住居跡、土坑等を検出。  |
| 11月27日 | 中世溝、土坑等を検出。     | 1月27日  | 古代遺構面全体写真。遺構測量。   |
| 12月22日 | 中世遺構面全体写真。      | 1月29日  | プレハブ等撤去。          |
| 12月25日 | 古代遺構面まで重機による掘削。 | 2月2日   | 重機による埋め戻し完了。調査終了。 |



第1図 遺跡位置図（『高崎市都市計画基本図』 1/2,500 を使用）



## 第2章 調査の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的環境

山名南若宮遺跡は、群馬県高崎市山名町に位置し、市街地の南東部に所在する。上信電鉄山名駅の東方約600mにあり、遺跡地の西方は観音山丘陵(岩野谷丘陵)の東南端にあたる。遺跡の南約500mは、下仁田町八風山に源流を發する鑄川と、御荷鉾山系に源流を發する鮎川が合流し、さらに遺跡の東方において烏川と合流している。本遺跡地は、これらの3河川と西に連なる標高200m前後の観音山丘陵の末端部とにはさまれ、三角形に画された沖積地上に立地している。周辺の標高は79m前後を測る。

周辺部は本来、畑地帯であったが、団地「山名イースタウン」が造成され、近年急速に宅地化が進む開発地域である。

### 第2節 遺跡の歴史的環境

**縄文時代** 観音山丘陵に所在する山名柳沢遺跡(20)で、前期初頭から中期の住居跡が、八幡山遺跡(22)で前期の土偶等を伴う遺構が確認されている。平地部においては、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡(15)で中・後期の集落、倉賀野万福寺遺跡(16)で中期の住居跡や土坑、田端遺跡(3)で後期の敷石住居、山名戸矢遺跡(2)で後期の住居跡が確認されている。

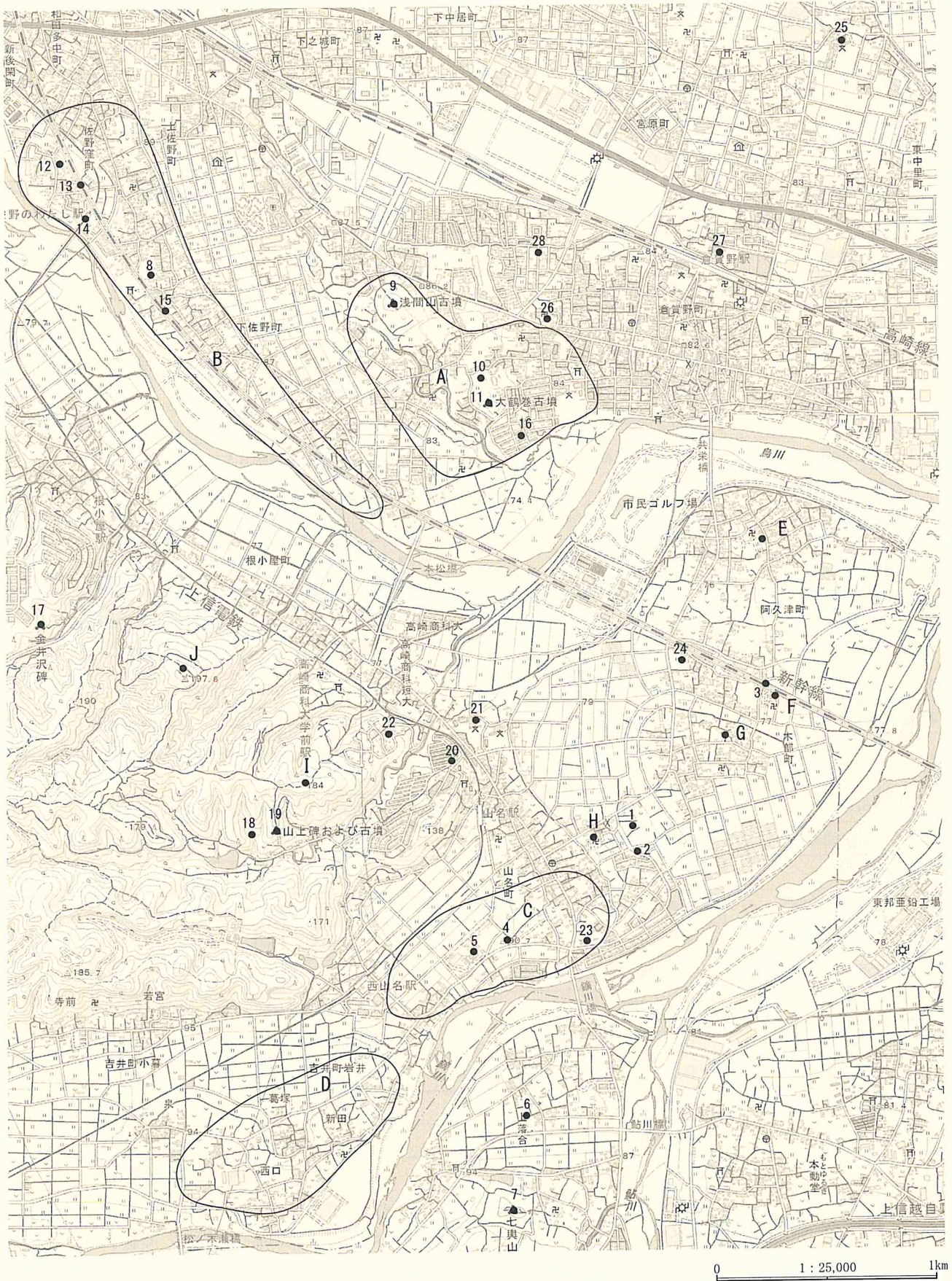
**弥生時代** 遺跡地周辺では、今のところ弥生時代の遺構の発見は類例を見ない。採集資料としては、中期中頃に属する条痕文系土器が山名田中地遺跡(23)から出土している。中期の遺跡のあり方、展開等を考察する上で、貴重な資料である。

**古墳時代** 遺跡地の北方、烏川左岸に沿って古墳が集中して分布する。倉賀野古墳群を形成する中期の大型前方後円墳である浅間山古墳(9)、大鶴巻古墳(11)、小鶴巻古墳(10)、佐野古墳群を形成する後期の前方後円墳である漆山古墳(8)、大型円墳の蔵王塚古墳などである。遺跡地周辺では、西方に市指定史跡山名古墳群(C)が位置する。山名古墳群は後期群集墳で、前方後円墳である山名伊勢塚古墳(4)をはじめ、山名原口Ⅰ遺跡1号墳(5)など中・小型円墳が数十基分布する。山名古墳群の西方にも、後期群集墳の岩井古墳群(D)が位置し、中・小型円墳が広く分布する。また鑄川をはさみ、山名古墳群と対峙する位置には、大型前方後円墳の七輿山古墳(7)、胴張り模様積石室で知られる伊勢塚古墳(6)がある。終末期古墳としては、凝灰岩切石使用の横口式石槨を主体部とする安楽寺古墳(26)がある。

**奈良・平安時代** 古代の集落は、烏川左岸に位置する船橋遺跡(13)、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡(15)、鑄川左岸に位置する田端遺跡(3)、山名戸矢遺跡(2)、山名柳沢遺跡(20)などで密に分布している。特徴的な遺物としては、山名戸矢遺跡の平安時代の住居から、「辛枚万呂(からのひらまる)」と刻字された丸瓦が出土している。矢中村東A遺跡では、浅間B軽石下層の平安時代の溝から「物部私印」と刻まれた銅印が出土している。古代官衙寺院遺構としては、田端遺跡で古代瓦が大量に出土しており、周辺に田端廃寺(24)の所在が推定されている。出土した軒丸瓦の中には山王廃寺に類似した複弁蓮華文が含まれ、でえせいじ遺跡(18)で採集された軒丸瓦と同范関係にあることが知られている。また古代において本遺跡地周辺は、片岡郡から割かれ多胡郡に統合された山部郷に位置するが、郷内には古代の石碑である国指定特別史跡「山上碑(19)」「金井沢碑(17)」が至近に所在する。

**中世** 観音山丘陵に、山名城(I)、根小屋城(J)、茶臼山城など多くの山城が分布する。遺跡地周辺では、西方に山名館(H)が、東方に木部城(G)や木部館(F)が造られている。烏川の対岸には、大規模な倉賀野城、永泉寺の砦などが位置し、倉賀野万福寺Ⅱ遺跡では小規模な屋敷跡が確認されている。中世遺構としては、山名戸矢遺跡、山名原口Ⅰ遺跡などで溝、竪穴遺構、集石遺構、墓坑などが確認されている。





第2図 周辺遺跡分布図 (国土地理院 1/25,000 を使用)



第1表 周辺遺跡一覧表

NO	遺跡名	概要	備考
1	山名南若宮遺跡	平安～中世の集落	本報告
2	山名戸矢遺跡	縄文～平安時代の集落・古墳～中近世土坑	『山名戸矢遺跡』1993 高崎市教委
3	田端遺跡	縄文～平安時代の集落・中近世土坑	『田端遺跡』1988 群埋文
4	山名伊勢塚古墳	後期前方後円墳	『山名伊勢塚古墳』2008 高崎市教委
5	山名原口 I 遺跡 1 号墳	後期円墳	『山名原口 I 遺跡』1990 高崎市教委
6	伊勢塚古墳	後期円墳	『藤岡市史』1993 資料編原始・古代・中世
7	七輿山古墳	後期前方後円墳	『藤岡市史』1993 資料編原始・古代・中世
8	漆山古墳	後期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
9	浅間山古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
10	小鶴巻古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
11	大鶴巻古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
12	上佐野船橋 5 遺跡	平安時代の集落・土坑・溝	『上佐野船橋遺跡 5』2014 高崎市教委
13	船橋遺跡	円墳・小石塚・古墳～平安時代の集落	『船橋遺跡』1989 群埋文
14	上佐野船橋 4 遺跡	円墳・奈良～平安時代の集落	『上佐野船橋 4 遺跡』2015 高崎市教委
15	下佐野遺跡 I・II 地区	縄文～平安時代の集落・土坑・方形周溝墓	『下佐野遺跡 I 地区』1989 群埋文
16	倉賀野万福寺遺跡	円墳・縄文～古墳時代の集落・方形周溝墓	『倉賀野万福寺遺跡』1983 高崎万福寺遺跡調査会
17	金井沢碑	国指定史跡 (726 年)	『高崎市史』1999 資料編 2 原始古代 II
18	でえせいじ遺跡	瓦窯跡か	『高崎市史』2003 通史編 1 原始古代
19	山上碑および古墳	国指定史跡 (681 年)・円墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
20	山名柳沢遺跡	縄文～平安時代の集落・土坑墓	『山名柳沢遺跡』1998 高崎市遺跡調査会
21	山名土合遺跡	後期古墳 (円筒埴輪列・家形埴輪)	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 9』1995 高崎市教委
22	八幡山遺跡	縄文時代前期後半の土偶・土器片	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
23	山名田中地遺跡	弥生時代中期土器片	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
24	田端廃寺	推定地、7 世紀末頃の廃寺	『田端遺跡』1988 群埋文
25	矢中村東 A 遺跡	平安時代 B 下水田・「物部私印」	『矢中村東遺跡』1984 高崎市教委
26	安楽寺古墳	終末期古墳・横口式石槨	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
27	倉賀野上極越遺跡	平安時代の集落・B 下水田・中近世の溝	『倉賀野上極越遺跡』2014 高崎市教委
28	倉賀野条里 I II III 遺跡	平安時代の集落・B 下水田・溝・土坑	『倉賀野条里遺跡』2001 高崎市教委
A	倉賀野古墳群	中期前方後円墳・後期群集墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
B	佐野古墳群	前期古墳～後期前方後円墳・群集墳	『高崎市史』1999 資料編 1 原始古代 I
C	山名古墳群	後期群集墳	『山名古墳群』2008 高崎市教委
D	岩井古墳群	後期群集墳	『岩井新田遺跡』2007 吉井町教委
E	木部北城	戦国時代 築造：木部氏か	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I
F	木部氏館	15 世紀 築造：木部氏	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I
G	木部城	16 世紀 築造：木部氏	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I
H	山名館	12 世紀 築造：山名氏か	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I
I	山名城	14 世紀 16 世紀改築 築造：山名氏か	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I
J	根小屋城	16 世紀 築造：武田氏	『高崎市史』1996 資料編 3 中世 I

## 第3章 調査の方法

### 第1節 遺跡の調査・記録方法

調査を開始するにあたり、測量基準杭を横田調査設計㈱に委託して行った。地積測量時の既知点を元に、調査区の北と南へ2点移設した（北 X = 31033.0・Y = -70785.0・H = 79.187 m、南 X = 31060.0・Y = -70785.0）。

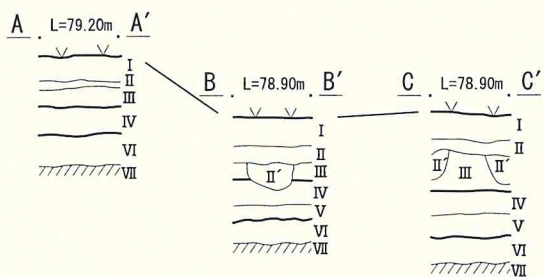
発掘調査は、遺構確認面まで重機による表土除去を行った。遺構の掘り下げについては、人力による掘削作業を行った。その後、古代の遺構確認面を確認したため、再度重機を用いて検出作業を行った。遺構平面実測図は、トータルステーション、オートレベルを使用して、各遺構を1/10・1/20を基本として作成した。全体図については、1/40測量を測研㈱に委託して行った。遺構断面実測図は1/20を基本として作成し、土層堆積の観察にあたった。

写真撮影は、モノクロ35mm・カラーズライド35mm・デジタルカメラの3台にて各調査段階の記録を撮った。調査区全体写真については、高所作業車をリースして、中世遺構面・古代遺構面の2回撮影を行った。

## 第4章 遺構と遺物

### 第1節 基本土層

本遺跡は鳥川、鍋川、鮎川の3河川が合流する沖積地上にあり、度重なる氾濫により複雑な堆積状況が認められる。調査区の地形は、現況面では平坦であるものの、表土掘削を行うと西に微高地状に高く、東に向かってなだらかな低い地形へと変換することが分かる。そのため同一地点でも、西と東で堆積状況に差が見られる。土層観察地点は第4図に示したとおり、西側のA地点、東側のB・C地点の3地点である。IV層は小礫を多く含む黒褐色砂質土で、中世の遺構を検出している。低い地形側のB・C地点では、中世遺構確認面の下層に、周辺河川もしくは西側の丘陵から続く小流路からの流れ込みV層が顕著に堆積している。V層は、角の無い丸みを持った土器細片や摩滅の多い土器片を多く含む包含層である。VI層はしまりの強い褐色地山土で、平安期の遺構を検出している。VI層に掘り込みを有する遺構の覆土は、土器細片を含む非常にしまりのある暗褐色土でV層と非常に近似している。確認面が上層位にある可能性もあるが、上面・断面からも識別は困難である。VI層以下は河原石を多く含む地山層である。河原石は、安山岩類のほか、結晶片岩、石英、緑色岩類、閃緑岩など鍋川起源の石材を多く包含しており、本地点の地形形成時は鍋川の氾濫域であった様子がうかがえる。



#### 基本土層 (A～C地点)

- I 10YR4/2 (灰黄褐色) 現耕作土。As-A 軽石を含む。
- II 7.5YR4/6 (褐色) 現耕作に伴う鉄分沈着層。As-A 軽石を含む。
- II' 10YR5/2 (灰黄褐色) As-A 処理溝。
- III 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 黄褐色粒子や多く含む。細かな土でよくしまる。
- IV 10YR3/3 (暗褐色) As-B 軽石のような砂粒子を多く包含する。粘性なし、よくしまる。遺構確認面。
- V 10YR4/3 (暗褐色) IV層同様粒子の細かな土でよくしまる。IV層より明るい。1～10cm 大の摩滅のひどい土器片を多く包含する。
- VI 10YR4/2 (灰黄褐色) 黄褐色シルト粒子主体層。1～5cm 大の礫を多く含む。粘性なし、よくしまる。遺構確認面。
- VII 10YR4/2 (灰黄褐色) 黄褐色シルト粒子に河原石を多く包含する。地山。

第3図 基本土層図 (S=1/40)



## 第2節 中世の遺構

### 溝 (SD)

SD 1 (遺構：第5図／遺物：第22図)

**重複**：P16、SD 3 を切る。SX 1 に切られる。**走行**：調査区ほぼ中央で確認された。地形の変換点に位置し、西側の微高地と東側の低地の境を南から北へ走行する。**確認規模**：全体では走長 23.45 m、幅 0.5～1.1 m、深さ 0.2～0.35 m を測る。途中、走行方向を北から東へ変えるが、SD 2 においても同じ形状である。**走行方位**：直線個所では N-12° -W。**遺物**：掲載遺物 7 点。いずれも覆土中からの出土で隣接遺構からの流れ込みと考えられる。また中間位置付近より、まとまった状態で馬歯が出土している。**所見**：SD 1 の上層位には、集石遺構 SX 1 が構築されている。SX 1 からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15 世紀以前の溝であることは確認できる。

SD 2 (遺構：第5図／遺物：第22図)

**重複**：SK21、SD 3、SX 7 を切る。SX 1 に切られる。**走行**：調査区ほぼ中央で確認された。SD 1 と同じく地形の変換点に位置し、西側の微高地と東側の低地の境を南から北へ走行する。**確認規模**：全体では走長 19.4 m、幅 0.8～1.6 m、深さ 0.15 m を測る。SD 1 と同じく、途中で走行方向を北から東へ変えるが、なだらかに立ち上がり溝は途切れていた。**走行方位**：直線個所では N-8° -W。**遺物**：掲載遺物 4 点。いずれも覆土中からの出土で隣接遺構からの流れ込みと考えられる。**所見**：SD 2 の上層位には、集石遺構 SX 1 が構築されている。SX 1 からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15 世紀以前の溝であることは確認できる。

SD 3 (遺構：第5図／遺物：第23図)

**重複**：SX 7 を切る。SD 1・2 に切られる。**走行**：調査区ほぼ南辺で確認された。検出当初は西へ延びる溝状と考え SD として番号を付したが、途中で立ち上がりを有し、円形を呈する土坑状である。**確認規模**：東西幅 5.0 m、深さ 0.4 m を測る。**遺物**：掲載遺物 3 点。遺物 53・54 は底面からの出土で、本遺構に伴う遺物と考えられる。**所見**：SD 3 の上層位には、集石遺構 SX 1 が構築されている。SX 1 からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15 世紀以前の遺構であることは確認できる。

### 土坑 (SK)

SK 1～22 (遺構：第6～8図／遺物：第23・24図／第2表)

中世遺構面のほぼ全域に散在し、22 基検出した。各土坑の一覧は第2表にまとめた。性格・時期が判断できるものはわずかで、多くは時期など判断できない。

### 柱穴 (P)

P 1～18 (遺構：第9・10図／第3表)

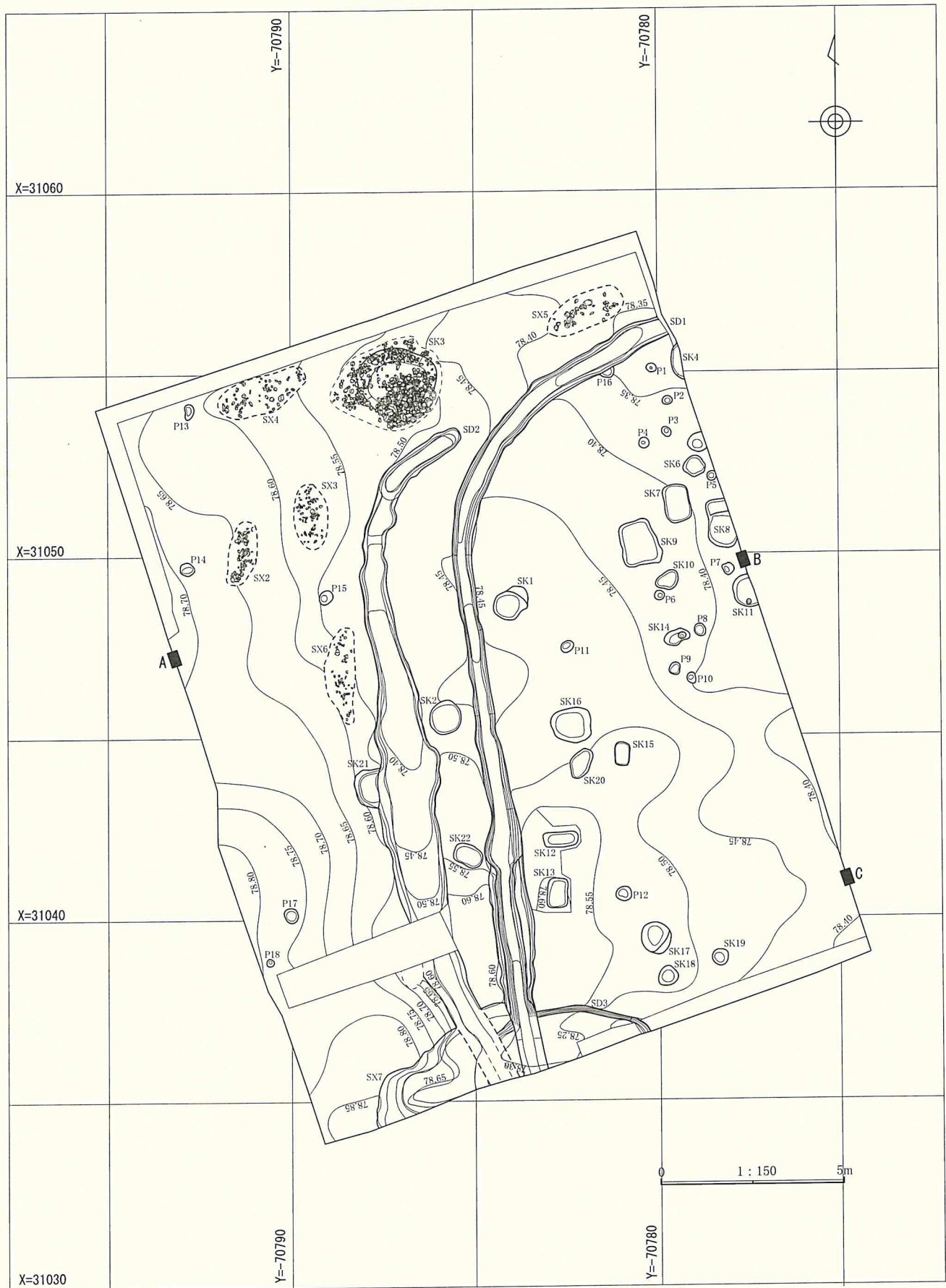
中世遺構面のほぼ全域に散在し、18 基検出した。各柱穴の一覧は第3表にまとめた。多くは伴出遺物がなく、性格・時期など判断できない。

### 性格不明遺構 (SX)

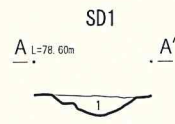
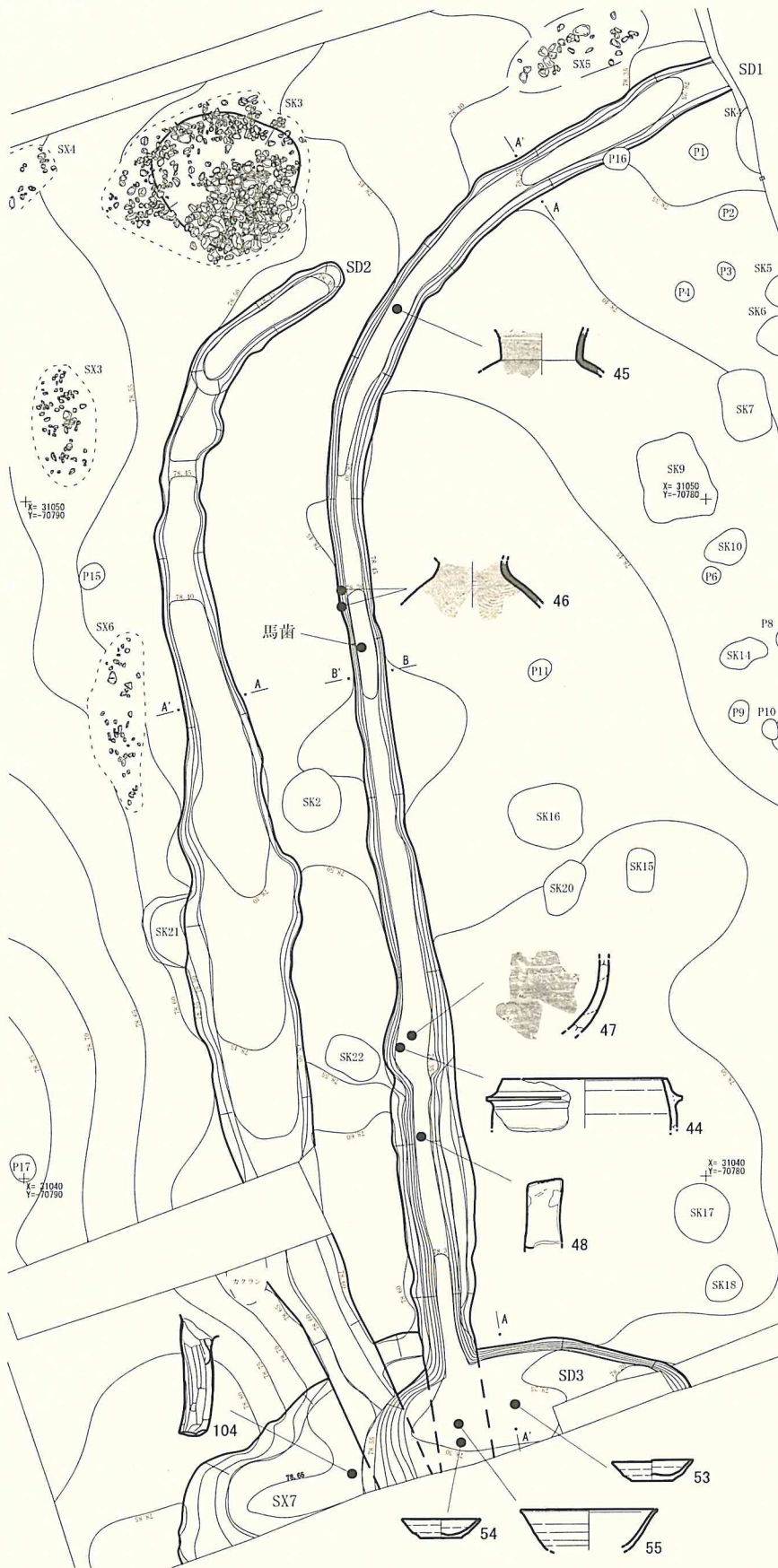
SX 1～7 (遺構：第11～12図／遺物：第24～26図／第4表)

調査区北寄りに 5 基、南寄りに 2 基検出した。SX 7 以外は集石遺構で、土器片と共に馬歯・骨片が伴出している。SX 7 はなだらかな浅い掘り込みをもつ形状で、遺構の性格は不明であるが、底面より三脚土器 (No. 104) の脚部が出土した。各不明遺構の一覧は第4表にまとめた。



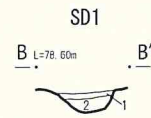


第4図 中世遺構全体図



SD1  
A L=78.60m A'

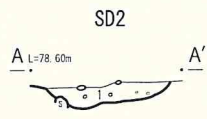
1 10YR3/3 (暗褐色)  
黒色土粒子、黒色土シルト質多く含む。やや軟質。粘質ややあり。2~3cm大礫所々含む。



SD1  
B L=78.60m B'

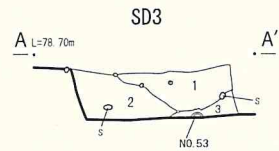
1 10YR3/2 (黒褐色)  
2層より黒色土粒子多く含む。

2 10YR3/3 (暗褐色)  
A-A' 1層に同じ。



SD2  
A L=78.60m A'

1 10YR3/3 (暗褐色)  
暗褐色粒子、シルト質主体。やや軟質。粘質やや強い。3~5cm大礫多量に含む。

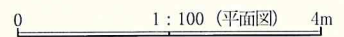
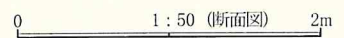


SD3  
A L=78.70m A'

1 10YR3/1 (黒褐色)  
黒色砂質土。径2~3cmの円礫を含む。しまり弱い。

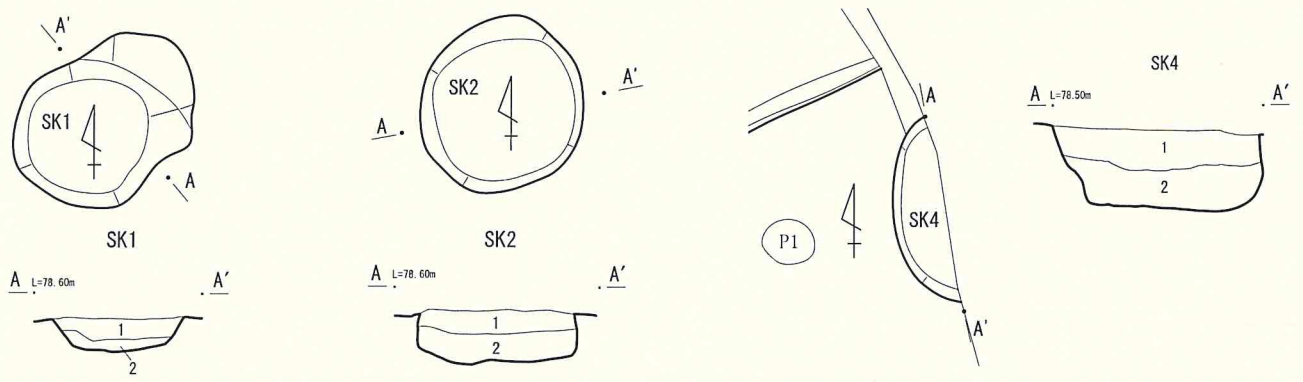
2 10YR3/2 (黒褐色)  
褐色粒子を含む土で、1層より粘質がある。径1~5cm程の円礫を含む。

3 10YR3/3 (暗褐色)  
やや粘性をもつ土で、2層よりしまる。径1~2cmの円礫含む。



第5図 SD1~3・SX7 遺構図

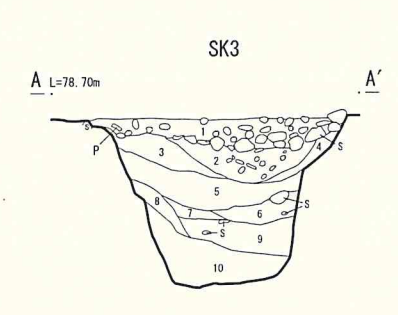
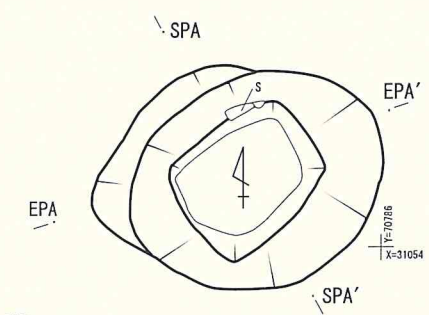
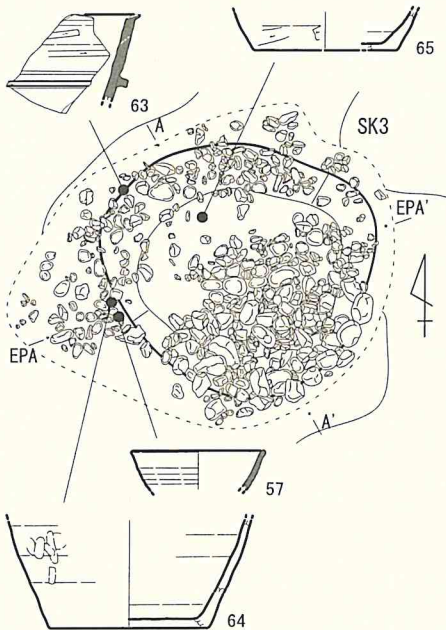




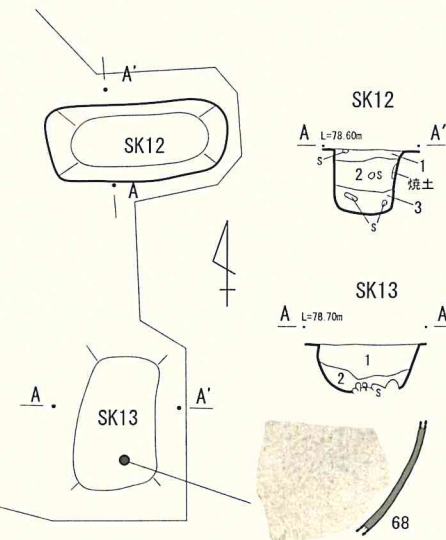
**SK1**  
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒、黒色砂質土層。砂質は川砂由来か、BP に由来するものか不明。軟質、粘性少ない。  
 2 10YR3/3(暗褐色) 1 層より茶褐色粒子多く含む。軟質、粘性ややあり。

**SK2**  
 1 10YR3/3(暗褐色) 黒色土粒子主体に、暗褐色粘土〜ブロック多く含む。2〜3cm 大礫多い。粘性やや強い。  
 2 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒子、黒色シルト質土主体。軟質。1〜2cm 大礫やや多く含む。

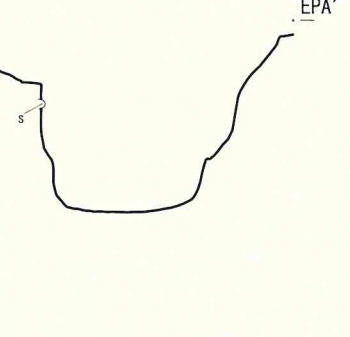
**SK4**  
 1 10YR3/3(暗褐色) 灰白色微粒子、褐色土を含む土で比較的しまる。  
 2 10YR3/3(暗褐色) 比較的しまる土で、褐色土小粒を混入。地山層と類似する。



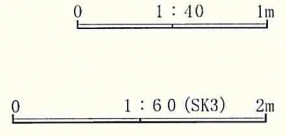
**SK3**  
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒子、黒色砂質土混土層。軟質層。砂質は BP に由来するものか。SD1 の覆土に似る。5〜15cm 大の河原石を多く含む。人骨あるいは獣骨を含む。  
 2 10YR3/1(黒褐色) 径2〜5cm 程の円礫を多く含む。やや砂質。  
 3 10YR3/2(黒褐色) やや砂質の土で、径1〜2cm 大の暗褐色土粒を含む。径2〜5cm 程の円礫がバラバラに混入。  
 4 10YR3/2(黒褐色) やや粘性のある土で炭粒わずかに含む。円礫は少ない。  
 5 10YR3/1(黒褐色) やや砂質の土で2層に類似するが、円礫の混入がさらに少なくなる。  
 6 10YR3/2(黒褐色) やや粘性のある土で径2〜5cm 程の円礫を多く含む。10〜20cm 程の円礫も若干含む。  
 7 10YR3/3(暗褐色) やや粘性のある暗褐色で、褐色土小粒を少し混入。円礫少ない。  
 8 10YR3/2(黒褐色) 砂質の土で、径2〜5cm 程の円礫が少し混入する。  
 9 10YR3/3(暗褐色) 粒子細かくやや粘性をもつ。褐色土粒を含む。円礫は少ない。  
 10 10YR3/2(黒褐色) 7層に似る。7層より円礫多く含む。



**SK12**  
 1 10YR3/1(黒褐色) 粘質土。2〜3cm 大礫所々含む。炭化物、炭化粒子少量含む。砂質少量含む。やや硬質。  
 2 10YR3/2(黒褐色) 粘質土。1層に似る。やや明るい。炭化粒、焼土粒子含む。焼土ブロック1〜3cm 少量含む。  
 3 10YR4/2(灰褐色) 暗褐色粒子やや多く含む。明るい。3〜5cm 大礫所々含む。炭化粒、焼土粒子少量、焼土ブロック1cm 少量含む。

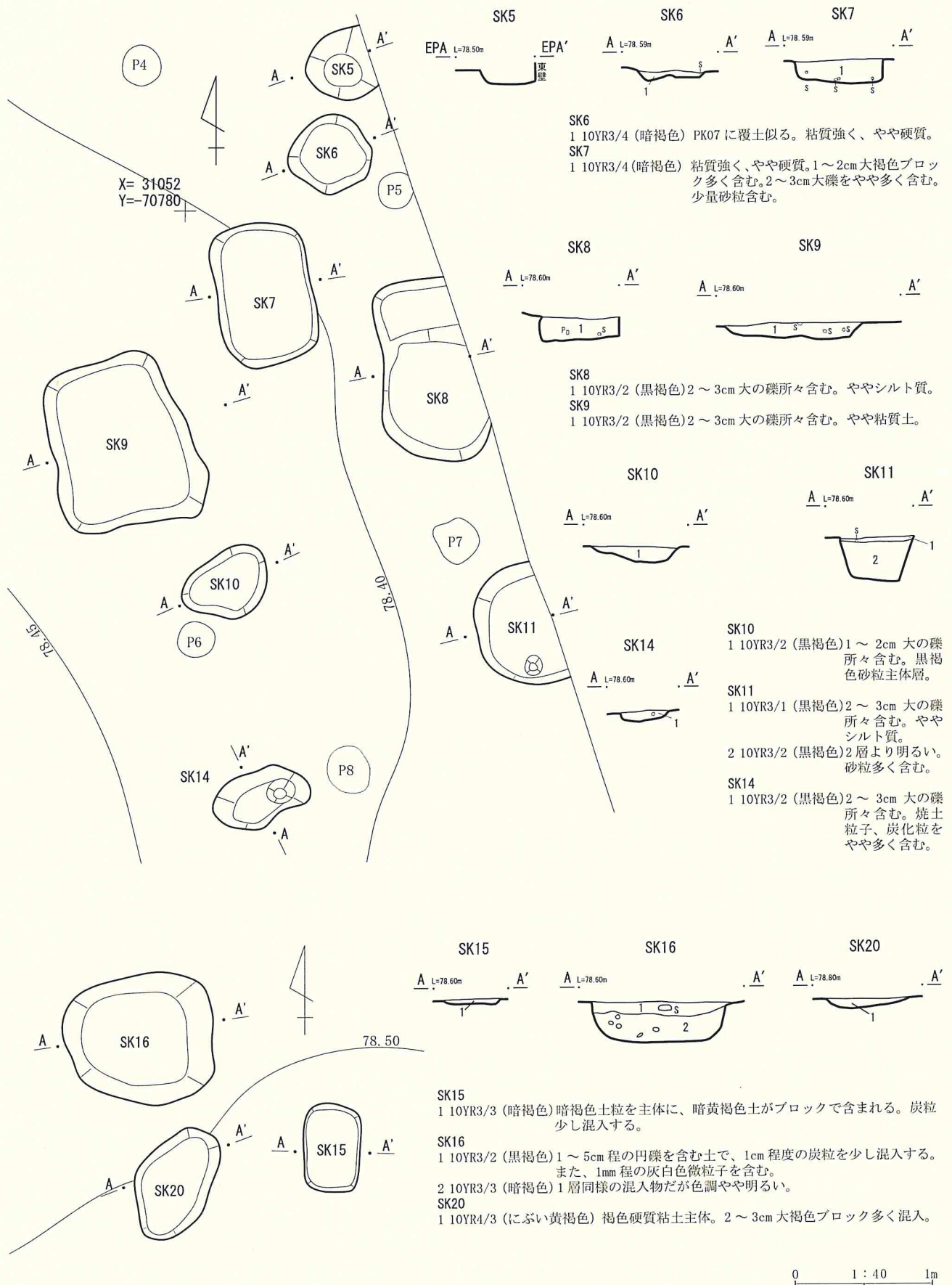


**SK13**  
 1 10YR4/1(褐灰色) 1〜3cm 大礫多く含む粘質土。0.5〜1cm 大焼土ブロック、粒子、炭化粒子所々含む。  
 2 2.5Y4/2(暗灰黄色) 褐色粒子多く明るい。焼土粒子少量含む。1〜3cm 大礫多く含む。

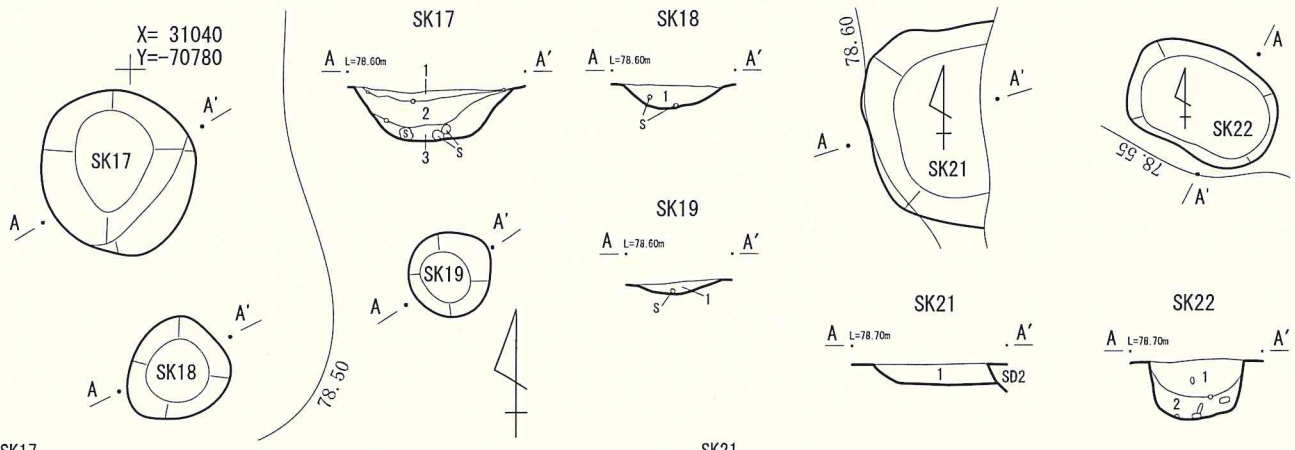


第6図 SK1〜4・16・13 遺構図



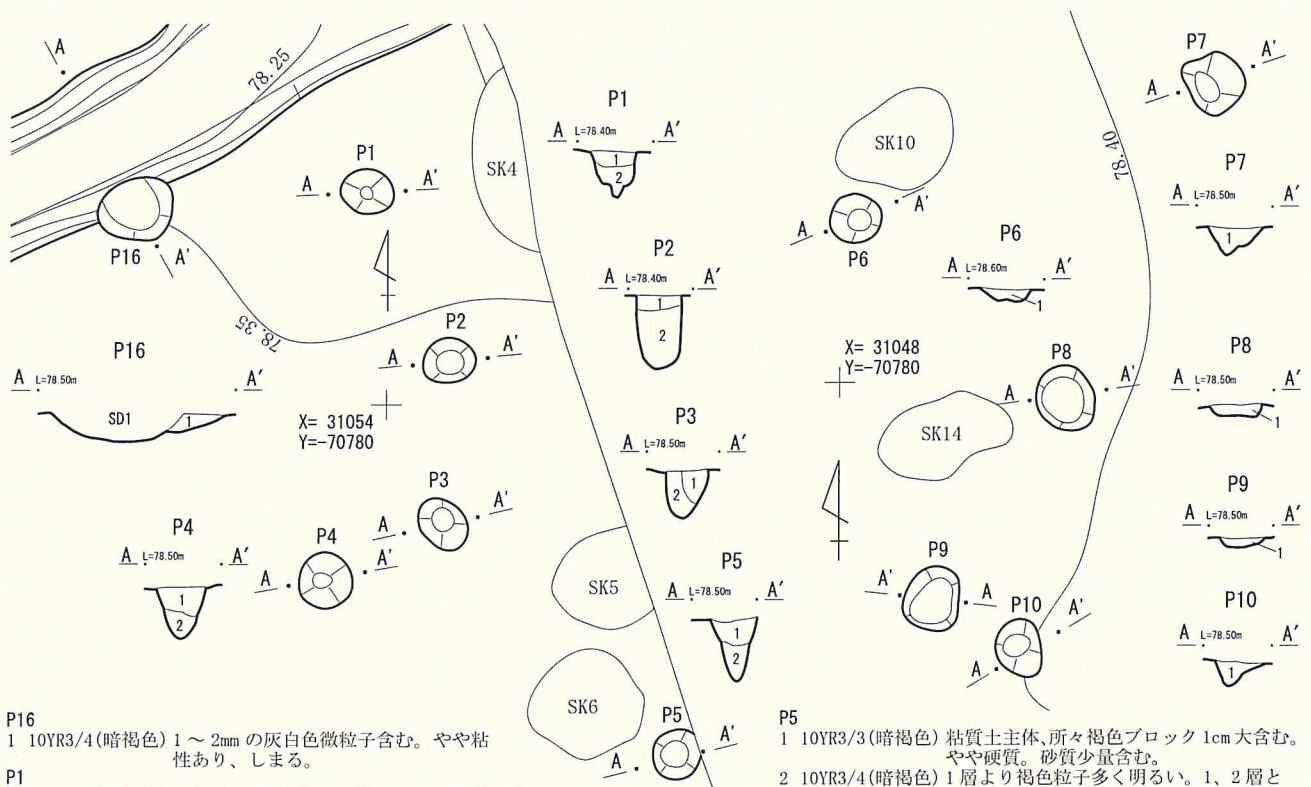


第7図 SK5~11・SK14~16・20遺構図



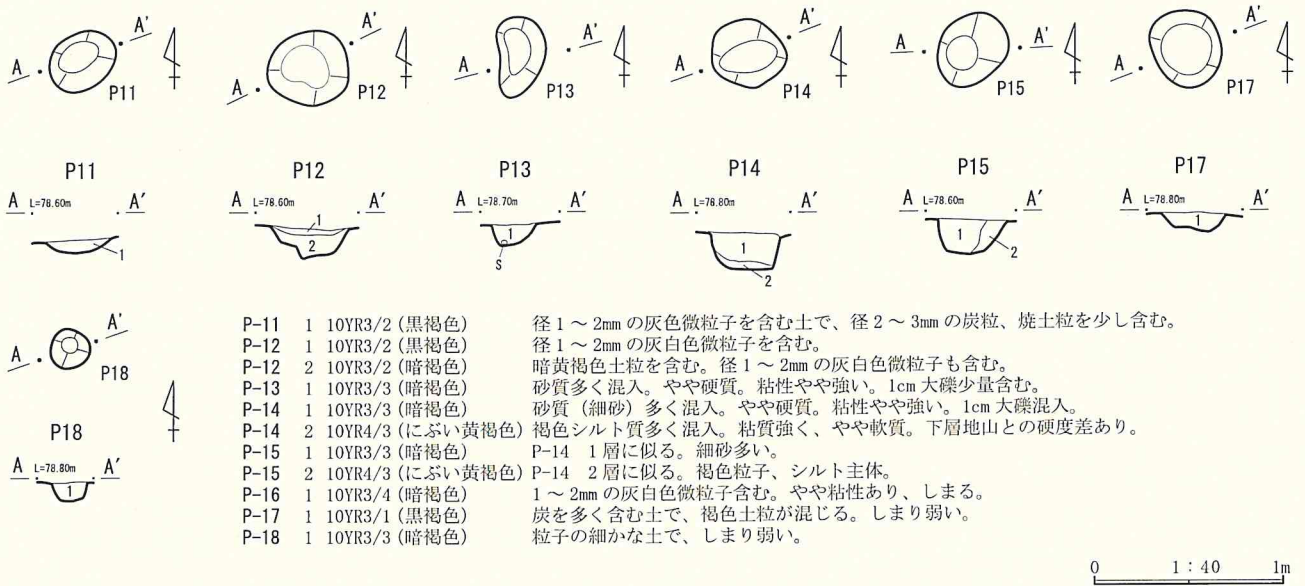
- SK17**  
 1 10YR3/2 (黒褐色) 1~2cmの円礫を含む土。1mm程の灰白色微粒子を含む。  
 2 10YR3/3 (暗褐色) 1~2cmの円礫、暗褐色土粒を含む。やや砂質。  
 3 10YR3/2 (黒褐色) やや砂質の土で、2~3cmの円礫を含む。
- SK18**  
 1 10YR3/3 (暗褐色) 径2~3cmの円礫を含む。1~2mmの灰色微粒子を混入。
- SK19**  
 1 10YR3/3 (暗褐色) SK18の1層に似る。
- SK21**  
 1 10YR4/3 (暗褐色) 暗褐色粒子、シルト質主体。SD02に比べ礫少ない。
- SK22**  
 1 10YR3/3 (暗褐色) やや粘性のある土で、暗褐色土、焼粒を多く含む。  
 2 10YR3/2 (黒褐色) 砂質土で3~5mmの円礫を含む。しまり弱い。

第8図 SK17~19・21・22 遺構図

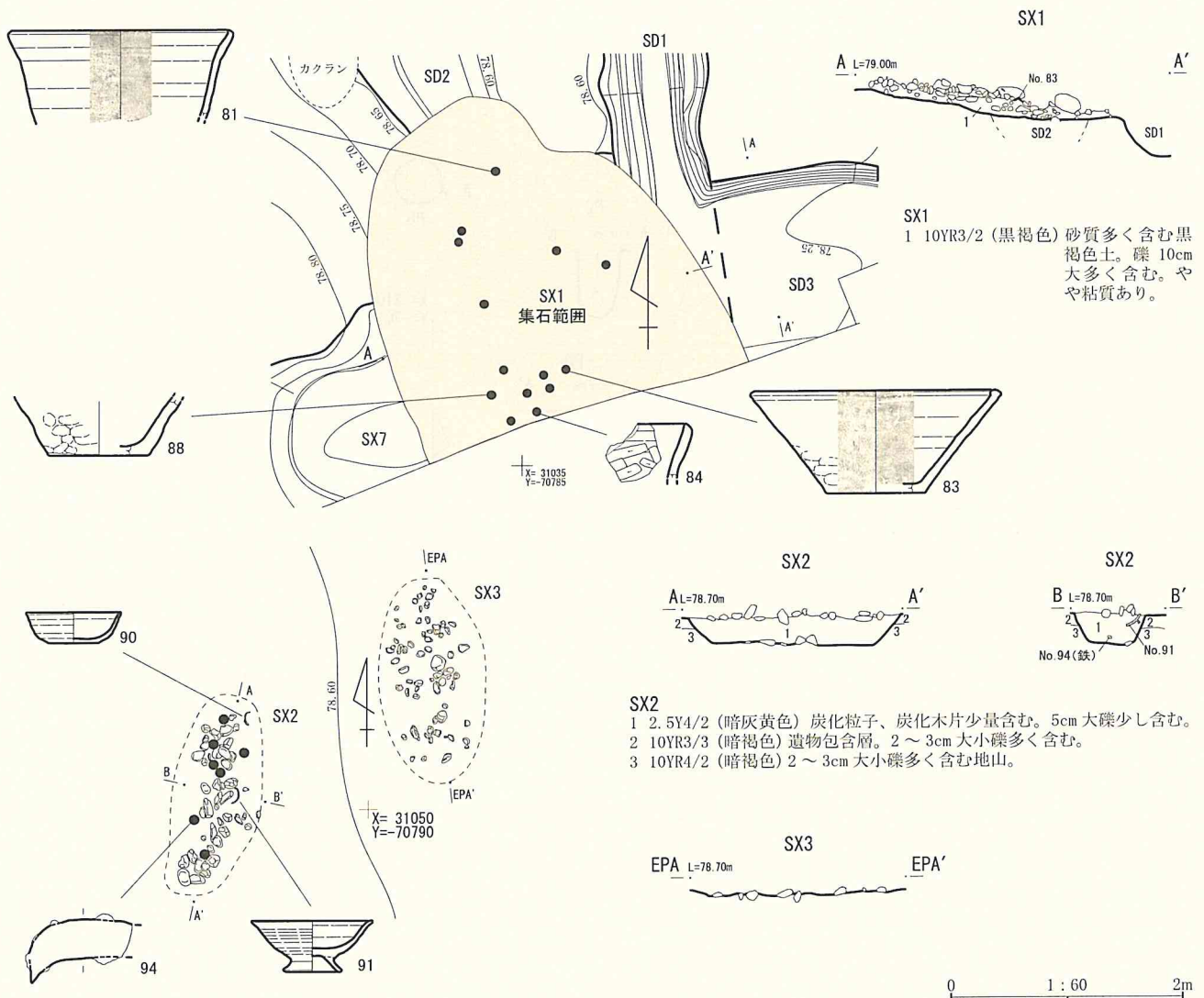


- P16**  
 1 10YR3/4 (暗褐色) 1~2mmの灰白色微粒子含む。やや粘性あり、しまる。
- P1**  
 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒褐色粒子主体。粘質土。やや硬質。礫あまり含まない。  
 2 10YR3/3 (暗褐色) 1層より褐色粒子多く含む。粘質土。礫あまり含まない。
- P2**  
 1 10YR3/3 (暗褐色) 暗褐色粒子主体。粘質土。P1-1層に似る。  
 2 10YR3/2 (黒褐色) 1層より黒色粒子多く含む。粘質土。礫あまり含まない。
- P3**  
 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒褐色粘質土主体。1cm大小礫少し含む。  
 2 10YR3/2 (黒褐色) 1層に、褐色ブロック1~2cm大所々含む。
- P4**  
 1 10YR4/3 (暗褐色) 暗褐色粘質土主体。1~2cm大褐色粘質土ブロック所々含む。礫少ない。  
 2 10YR4/2 (黄褐色) 1層より褐色粒子多く含む。褐色ブロック少ない。
- P5**  
 1 10YR3/3 (暗褐色) 粘質土主体、所々褐色ブロック1cm大含む。やや硬質。砂質少量含む。  
 2 10YR3/4 (暗褐色) 1層より褐色粒子多く明るい。1、2層ともあまり礫含まない。
- P6**  
 1 10YR3/1 (黒褐色) P-10に似る。
- P7**  
 1 10YR3/1 (黒褐色) P-10に似る。
- P8**  
 1 2.5Y3/3 (暗オリーブ褐色) 硬質。粘質やや強い。1cm大小礫所々含む。褐色粒主体。
- P9**  
 1 10YR3/2 (黒褐色) 硬質。粘性強い。褐色ブロック少量含む。
- P10**  
 1 10YR3/1 (黒褐色) P-7に似る。他遺構より黒色土多く粘質強い。炭化粒少量含む。砂質少量含む。

第9図 P1~10・16 遺構図

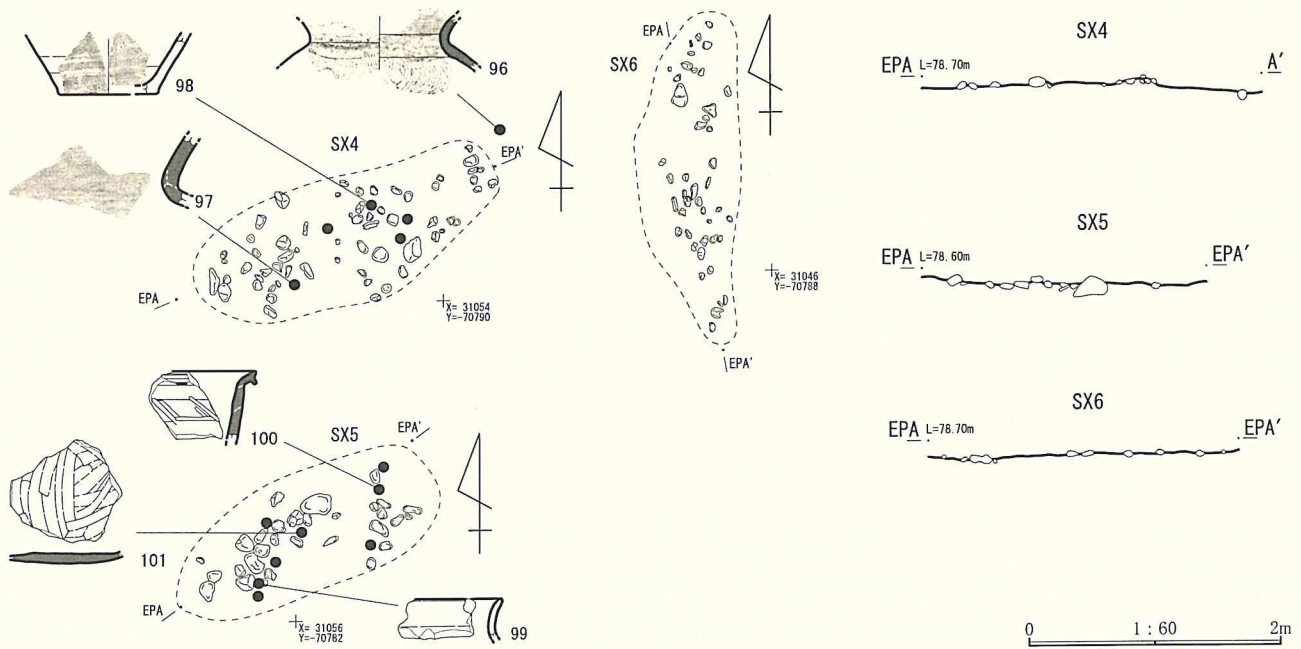


第10図 P11~15・17・18 遺構図



第11図 SX1~3 遺構図





第12図 SX4～6遺構図

第2表 中世土坑一覽表

番号 SK	形 状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	不整円形	逆台形	100	80	17	土師器片・須恵器片	—
2	円形	箱形	90	80	29	土師器片	—
3	円形	有段箱形	230	190	132	No. 56～66、骨片	—
4	不整円形	箱形	60	30	42	土師器片	—
5	円形	箱形	52	48	10	土師器片・須恵器片	—
6	円形	皿状	60	54	7	土師器片・須恵器片	—
7	長方形	箱形	108	70	17	土師器片・須恵器片	—
8	不整円形	箱形	138	74	17	土師器片・須恵器片	—
9	長方形	皿状	120	100	11	土師器片・須恵器片	—
10	不整円形	皿状	68	48	12	土師器片	—
11	円形	逆台形	90	56	32	土師器片・須恵器片	—
12	楕円形	箱形	96	40	34	No. 67	—
13	長方形	箱形	78	54	24	No. 68	—
14	不整円形	皿状	72	40	7	須恵器片・骨片	—
15	長方形	皿状	64	40	4	骨片	—
16	円形	箱形	108	94	29	No. 69～71	—
17	不整円形	皿状	70	56	7	なし	—
18	円形	逆台形	88	80	15	土師器片	—
19	円形	皿状	46	44	6	土師器片	—
20	不整円形	皿状	70	56	7	なし	—
21	不整円形	逆台形	100	58	10	なし	SD2に切られる
22	楕円形	箱形	80	54	31	土師器片・須恵器片	—

第3表 中世柱穴一覧表

番号 P	形 状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	円形	有段箱形	27	26	25	なし	—
2	円形	筒形	28	23	38	なし	—
3	円形	半球形	28	22	24	なし	—
4	円形	筒形	28	28	54	なし	—
5	円形	筒形	24	24	31	なし	—
6	円形	皿状	28	26	6	なし	—
7	円形	皿状	30	28	15	土師器片	—
8	円形	皿状	38	32	6	土師器片・須恵器片	—
9	円形	皿状	34	28	5	土師器片	—
10	円形	皿状	30	24	12	須恵器片	—
11	円形	皿状	36	28	6	なし	—
12	円形	有段箱形	44	40	16	なし	SI9のカマドを切る
13	楕円形	半球形	42	24	11	なし	—
14	円形	箱形	38	36	19	なし	—
15	円形	逆台形	38	36	18	土師器片	—
16	円形	皿状	40	33	18	須恵器片	SD1に切られる
17	円形	皿状	42	36	10	土師器片	—
18	円形	箱形	20	20	10	なし	—

第4表 中世性格不明遺構一覧表

番号 SX	形 状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	楕円形 集石遺構	(掘り込みなし)	285	280	—	No. 79 ~ 89 集石内に土器片多く伴う	SD 1・2・3を切る
2	楕円形 集石遺構	箱形	182	80	25	No. 90 ~ 95	—
3	楕円形 集石遺構	(掘り込みなし)	180	94	—	なし	—
4	楕円形 集石遺構	(掘り込みなし)	258	106	—	No. 96 ~ 98、集石内に馬歯を伴う	—
5	楕円形 集石遺構	(掘り込みなし)	224	92	—	No. 99 ~ 102	—
6	楕円形 集石遺構	(掘り込みなし)	265	82	—	No. 103	—
7	楕円形	皿状	(300)	112	20	No. 104	SX 1・SD 1・2・3に切られる

### 第3節 古代の遺構

#### 竪穴住居 (SI)

SI 1 (遺構：第14図／遺物：第20図)

重複：SI 2に切られる。SI 2の構築時にカマドは破壊される。形態・規模：東西2.32m、南北3.16m、深さ0.22mを測る。長方形を成す。主軸方向はN-83°-E。柱穴、貯蔵穴は確認出来なかった。カマド：構築面の燃焼部分をSI 2の床面検出時に確認した。床面：硬化面を広く確認した。床面中央付近で、黒灰色の炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物1点 (No. 1)。後世の流れ込みの可能性がある。遺構に対する出土遺物量は非常に少なく、廃絶時に食膳具類は全て外へ持ち出している可能性が高い。所見：覆土は人為的埋土と判断する。SI 2構築にあたり早急に埋め戻された可能性がある。時期を判断できる遺物は無いが、SI 2と時期差はあまりものないを考える。

SI 2 (遺構：第14図／遺物：第20図)

重複：SI 1を切る。形態・規模：南北2.76m、深さ0.25mを測る。主軸方向は不明であるが、SI 1



と近似すると思われる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。調査区東壁付近で赤褐色の焼土範囲を確認した。SI 1 の東壁ラインと直交する位置から、SI 1 のカマド燃焼部と考えられる。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：遺構に対する出土遺物量は非常に少ない。SI 1 と同じく、廃絶時に全て外へ持ち出している可能性が高い。掲載遺物は 1 点 (No. 2)。後世の流れ込みの可能性はある。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期と推定される。

SI 3 (遺構：第 14 図／遺物：第 20 図)

重複：SK28・29・34 に切られる。形態・規模：規模は不明である。主軸方向も不明であるが、他の住居と比べ明らかに方向が異なる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。検出したコーナー付近で炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物 13 点 (No. 3～15)。床面直上からは No. 14 の軒平瓦のほか、No. 6・7 が出土している。所見：出土遺物から 10 世紀代と推定される。

SI 4・5 欠番

SI 6 (遺構：第 14 図／遺物：第 20 図)

重複：SX 1・SX 7 が上層位にある。形態・規模：東西 2.5 m、深さ 0.25 m を測る。主軸方向は不明であるが、柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物 1 点 (No. 16)。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期 10 世紀代と推定される。

SI 7 (遺構：第 14 図／遺物：第 21 図)

重複：P42・43 に切られる。SK40 を切る。形態・規模：南北 2.58 m、深さ 0.43 m を測る。主軸方向は不明であるが、SI 1・2 と近似すると思われる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。北辺寄りで炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物 4 点 (No. 17～20)。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期と推定される。

SI 8 (遺構：第 14・15 図／遺物：第 21 図)

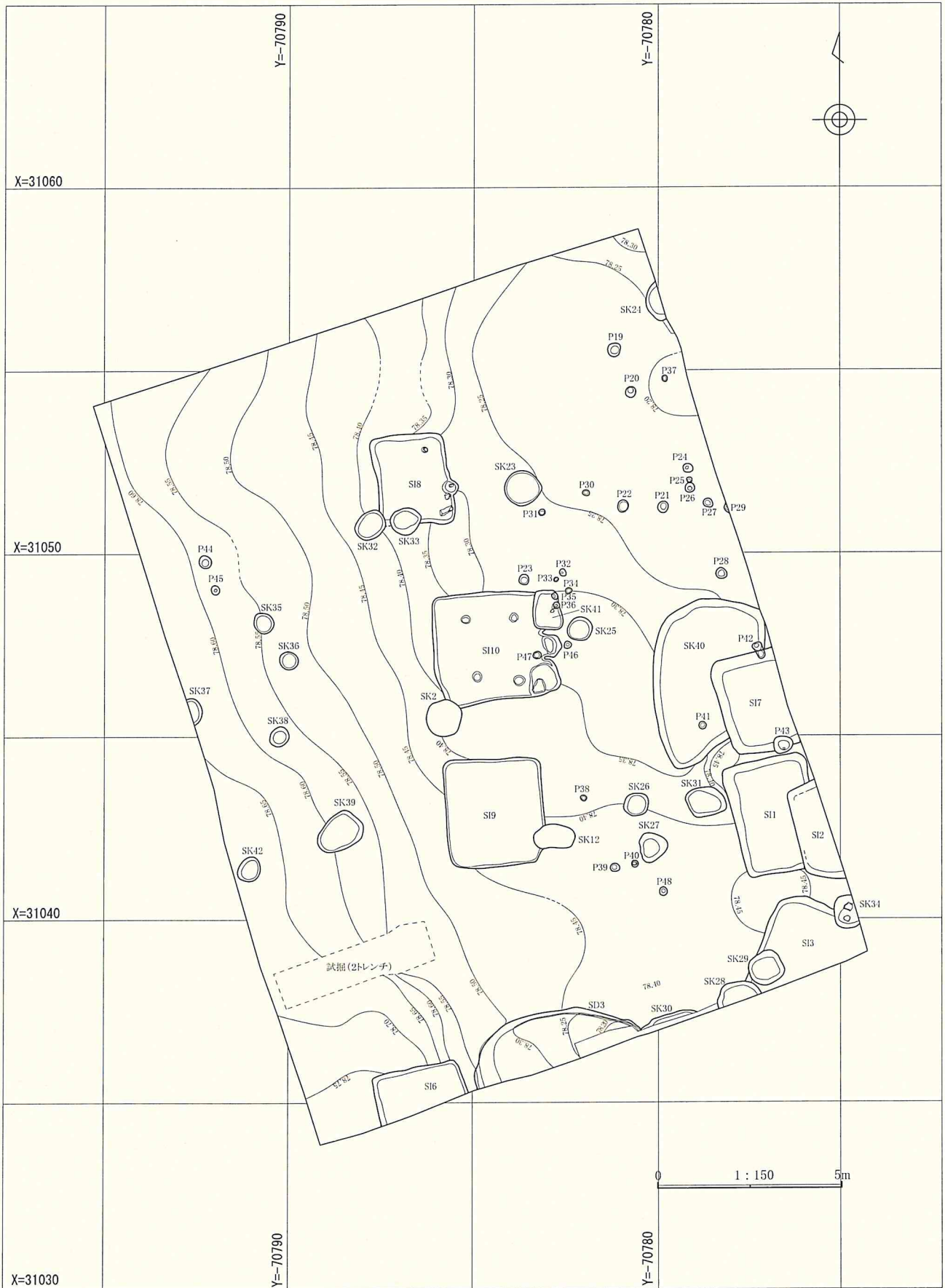
重複：SD 2・SK32・33 に切られる。形態・規模：東西 2.1 m、南北 2.5 m、深さ 0.20 m を測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向は N-80° -E。柱穴は北東コーナー付近で P1 を確認した。カマド：東辺のやや南寄りで燃焼部の範囲を検出した。燃焼部周辺からは土器片のほか、袖石に高架したと思われる長方形を呈した凝灰岩が出土している。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物 8 点 (No. 21～28)。床面直上遺物はなかったが、カマドから No. 26・28 が出土している。所見：出土遺物から、10 世紀代と推定される。

SI 9 (遺構：第 15 図／遺物：第 21 図)

重複：SD 1・SK12・SK22 に切られる。形態・規模：東西 2.44 m、南北 2.93 m、深さ 0.15 m を測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向は N-88° -E。柱穴は確認出来なかった。カマド：SK12 の下半部の壁面は、赤褐色に焼けた状態で検出された。おそらく SI 9 のカマドを切って構築したものと推定される。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物 3 点 (No. 29～31)。全て覆土からの出土である。所見：出土遺物から、10 世紀代と推定される。

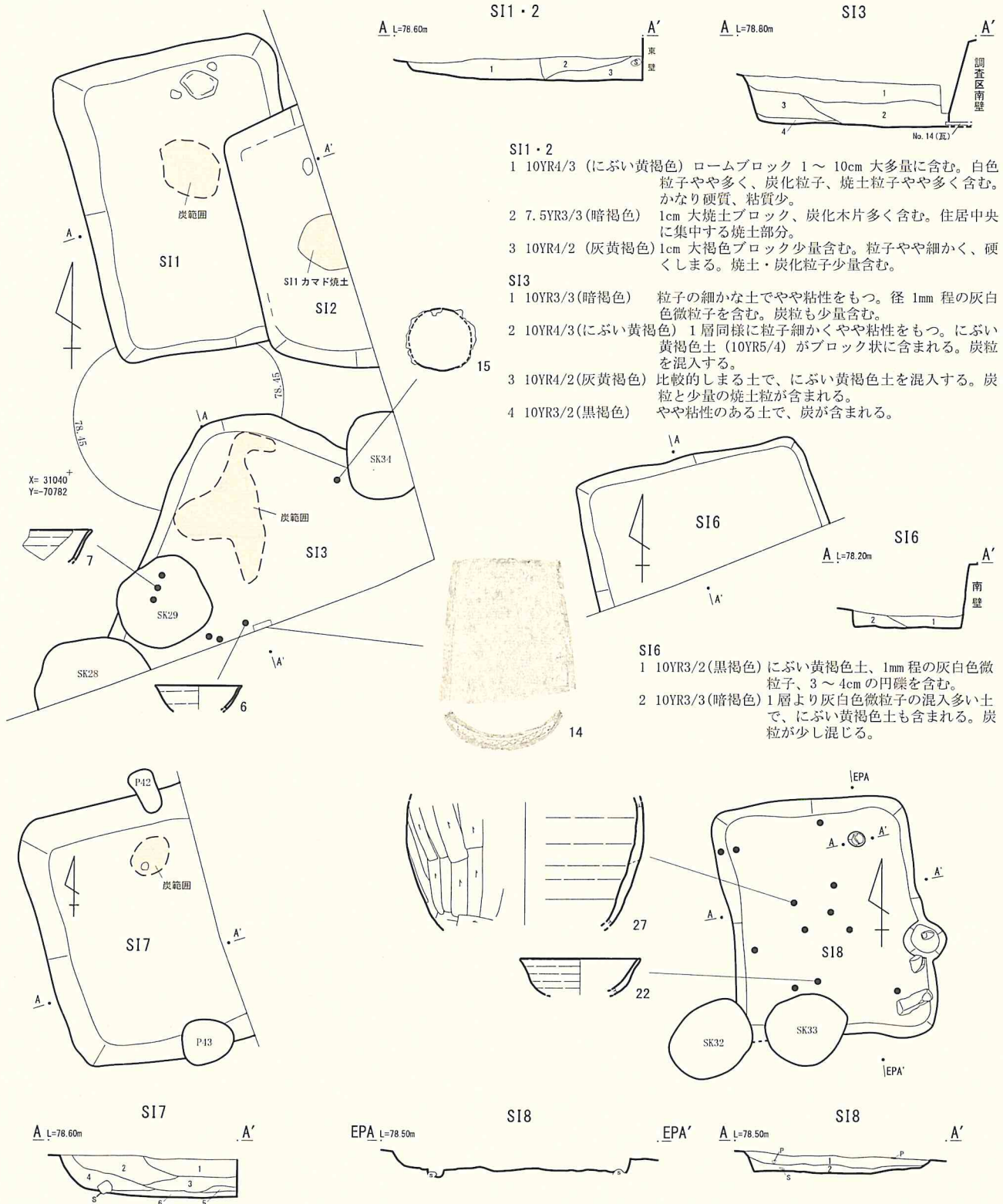
SI 10 (遺構：第 15 図／遺物：第 21・22 図)

重複：SD 2・SK 2・SK41・P35・36・47 に切られる。形態・規模：東西 3.4 m、南北 3.05 m、深さ 0.16 m を測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向は N-83° -W。柱穴は P1 から P4 を確認し、南東コーナー付近で貯蔵穴と思われる P5 を確認した。カマド：東辺のほぼ中央で検出した。燃焼部周辺からは土器片がまとまってした。床面：SI 8・9 同様、地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面は無かった。



第 13 図 古代遺構全体図





S11・2

S13

S11・2

- 1 10YR4/3 (にぶい黄褐色) ロームブロック 1~10cm 大多量に含む。白色粒子やや多く、炭化粒子、焼土粒子やや多く含む。かなり硬質、粘質少。
- 2 7.5YR3/3 (暗褐色) 1cm 大焼土ブロック、炭化木片多く含む。住居中央に集中する焼土部分。
- 3 10YR4/2 (灰黄褐色) 1cm 大褐色ブロック少量含む。粒子やや細かく、硬くしめる。焼土・炭化粒子少量含む。

S13

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 粒子の細かな土でやや粘性をもつ。径 1mm 程の灰白色微粒子を含む。炭粒も少量含む。
- 2 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 1層同様に粒子細かくやや粘性をもつ。にぶい黄褐色土 (10YR5/4) がブロック状に含まれる。炭粒を混入する。
- 3 10YR4/2 (灰黄褐色) 比較的しまる土で、にぶい黄褐色土を混入する。炭粒と少量の焼土粒が含まれる。
- 4 10YR3/2 (黒褐色) やや粘性のある土で、炭が含まれる。

S16

- 1 10YR3/2 (黒褐色) にぶい黄褐色土、1mm 程の灰白色微粒子、3~4cm の円礫を含む。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) 1層より灰白色微粒子の混入多い土で、にぶい黄褐色土も含まれる。炭粒が少し混じる。

S17

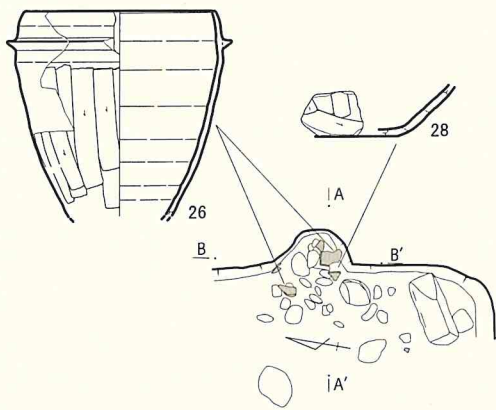
- 1 10YR3/3 (暗褐色) 径 3~4cm の褐色土ブロックを多く含む土でやや粘性あり。
- 2 10YR3/2 (黒褐色) やや砂質の土で、灰白色微粒子・炭粒・径 1cm 程の褐色土小粒を含む。
- 3 10YR3/2 (黒褐色) 1層と同様に褐色土ブロックを多く含むが、やや砂質。
- 4 10YR3/3 (暗褐色) 1層とほぼ同様に褐色土ブロックを多く含む。灰白色微粒子を全体的に混入する。
- 5 10YR5/4 (にぶい黄褐色) 粘性のある黄褐色土を主体とする、暗褐色土が少し混じる。
- 6 10YR3/3 (暗褐色) 黄褐色ブロックを多く含む土で、灰白色微粒子も含む。比較的しまる。

S18

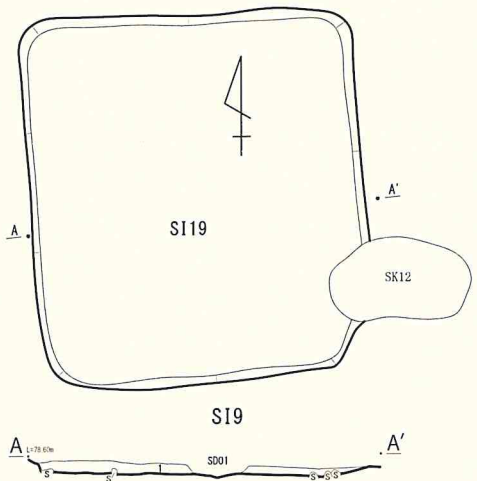
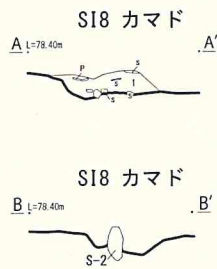
- 1 10YR3/3 (暗褐色) 炭化物、焼土粒やや多く含む。暗褐色ブロック (1~2cm) 少量含む。硬質。粘性少ない。
- 2 10YR4/2 (灰黄褐色) 炭化物、焼土粒やや多く含む。2~5cm 大小礫多量。褐色ブロック、粒子多い。硬質。粘性少ない。

0 1:60 2m

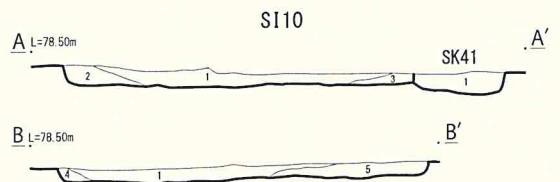
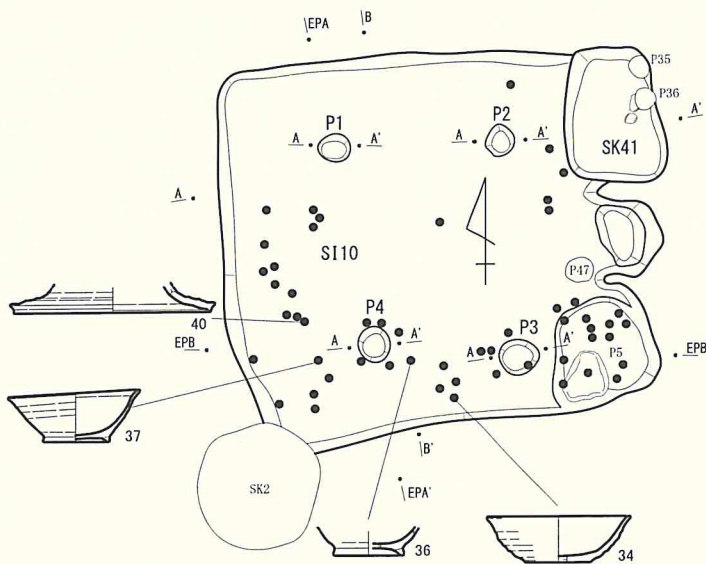
第14図 S11~3・6~8遺構図



S18 カマド  
1 10YR3/3(暗褐色) にぶい黄褐色土を含む土で、焼土粒が少し混じる。

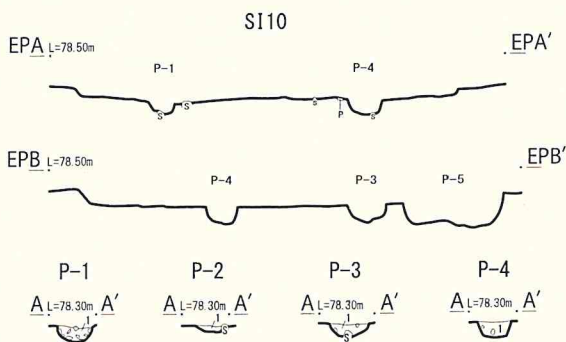


S19  
1 10YR3/2(黒褐色) 灰黄褐色微粒子、にぶい黄褐色砂質土の混じる土で、径3~5cmの円礫を多く含む。

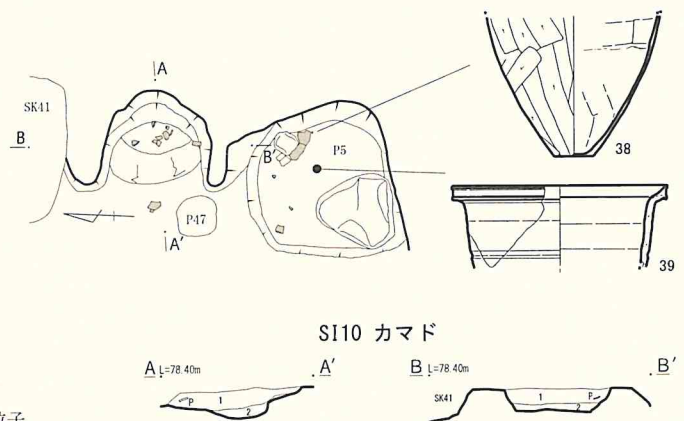


S110  
1 10YR3/2(黒褐色) 1mm程の灰白色微粒子、にぶい黄褐色土を混入する。径2~3cmの円礫を含む。  
2 10YR4/2(灰黄褐色) 比較的しまる土で、2~3mmの灰白色粒子を含む。径2~3cmの円礫混入。  
3 10YR3/4(暗褐色) 2~3mmの灰白色粒子および黄褐色粒子を含む。比較的しまる。  
4 10YR4/2(灰黄褐色) 2層とほぼ同じ。  
5 10YR3/3(暗褐色) にぶい黄褐色を含む。灰白色微粒子・炭粒を少量混入する。

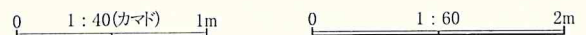
SK41  
1 10YR3/3(暗褐色) 径1mm程の灰白色微粒子・にぶい黄褐色土ブロックを含むしまった土。



P-1  
1 10YR4/3(にぶい黄褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子、にぶい黄褐色微粒子を含む土で、ややザラつく。  
P-2  
1 10YR4/3(にぶい黄褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を含むが、全体的に粒子の細かな土。  
P-3  
1 10YR4/3(にぶい黄褐色) P-2と同様だが炭粒・焼土粒を少し含む。  
P-4  
1 10YR3/3(暗褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を含み、炭粒を少し混入する。

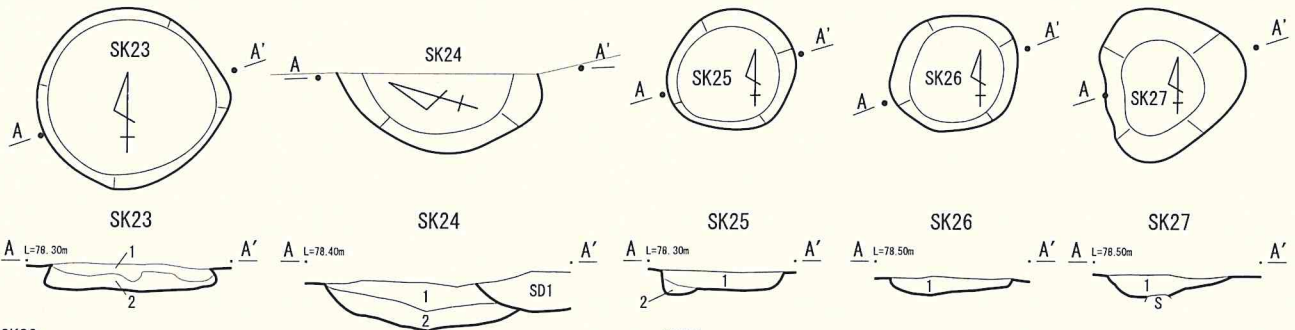


S110 カマド  
1 10YR3/3(暗褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を全体的に含み、焼土粒・炭粒を少量混入する。  
2 10YR3/4(黒褐色) 1層と同様だが、焼土の混入多く、やや軟らかい。



第15図 S18~10遺構図





**SK23**

- 1 10YR3/3(暗褐色) 褐色粒子含むやや多く含む。2層より明るい。1cm 大暗褐色粘土同ブロック多く含む。硬質。
- 2 10YR3/1(黒褐色) 1層より暗い。2~3cm 大暗褐色ブロック多く含む。硬質。

**SK24**

- 1 10YR3/4(暗褐色) ゼラゼラの砂を含む土で、にぶい黄褐色土粒を混入。
- 2 10YR3/2(黒褐色) ゼラゼラの砂を含む土で、暗褐色土小粒・にぶい黄褐色土小粒を混入する。

**SK25**

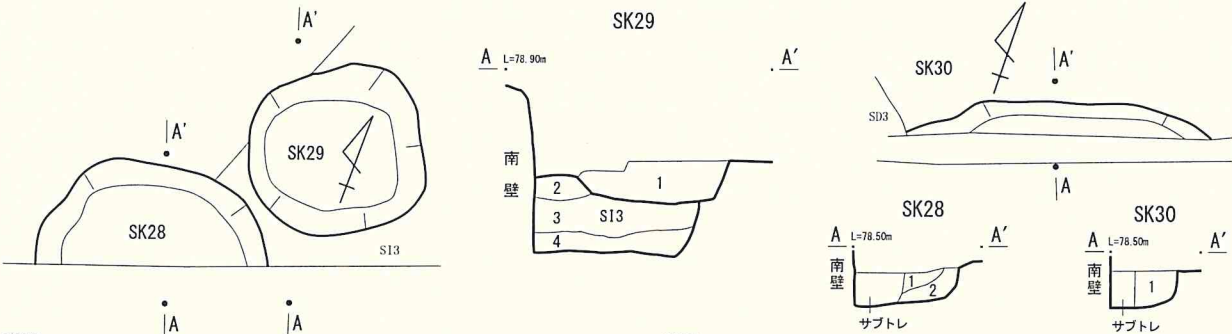
- 1 10YR3/3(暗褐色) 暗褐色粒をやや多く含む。径1~2cmの小礫混入する。
- 2 10YR3/1(黒褐色) 暗褐色粒と少量の褐色粒が混じる土。

**SK26**

- 1 10YR3/4(暗褐色) 硬質。1~3cm大礫やや多く含む。焼土粒子少、炭化物片・粒子少量含む。

**SK27**

- 1 10YR3/4(暗褐色) 硬質。3~5cm大礫やや多く含む。焼土粒子少量、炭化物片、炭化物片少量含む。



**SK28**

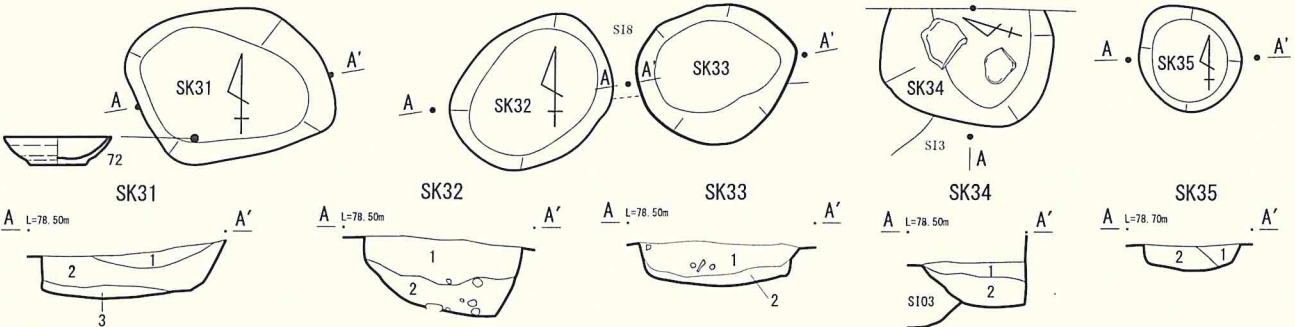
- 1 10YR3/2(黒褐色) 黒褐色砂粒やや多く含む。粘質やや強い。褐色ブロックは含まない。
- 2 10YR3/3(暗褐色) 黒褐色砂粒やや多く含む。粘質やや強い。褐色ブロック1cm大多く含む。1層より明るく、粘質強い。

**SK30**

- 1 10YR3/2(黒褐色) SK28に似る。

**SK29**

- 1 10YR3/2(黒褐色) 黒褐色砂粒多く含む。やや硬質。粘性ない。白色粒少量含む。2~3cm大灰褐色ブロック多く含む。
- 2 10YR3/3(暗褐色) 焼土粒子、炭化物片やや多く含む。硬質、粘性少ない。
- 3 10YR3/4(暗褐色) かなりしめる土質。土器片、小礫多く含む。焼土粒・炭化粒子含む。



**SK31**

- 1 10YR3/2(黒褐色) 1cm大小礫含む。やや硬質。
- 2 10YR3/3(暗褐色) 1層より褐色粒子多く含む。やや硬質。
- 3 10YR4/3(にぶい褐色) ややシルト質の褐色粒子含む。粘質少ない。やや硬質。

**SK32**

- 1 10YR3/2(黒褐色) 1~2cm 大小礫多量に含む。黒褐色砂粒少量。粘質少ない。
- 2 10YR4/2(灰黄褐色) 1層より褐色粒子多く、明るい。1層より粘質強く、小礫少ない。5cm大礫所々含む。

**SK33**

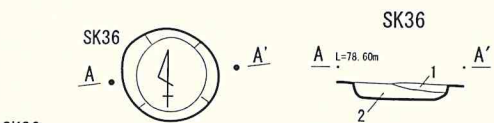
- 1 10YR3/2(黒褐色) 1cm 大小礫~5cm大礫を多量に含む。黒褐色砂粒少量含む。硬質。
- 2 10YR4/2(灰黄褐色) 褐色粒子多く含み明るい。粘質強い。1層より小礫少ない。

**SK34**

- 1 10YR3/4(暗褐色) 暗褐色砂粒やや多く含む。やや硬質。粘性やや強い。
- 2 10YR4/4(褐色) 0.5~1cm大褐色ブロックやや多く含む。やや硬質。粘性やや強い。

**SK35**

- 1 2.5Y4/2(暗褐色) シルト質に近い暗灰黄色粒子主体。1cm 大小礫を含む。
- 2 10YR3/3(暗褐色) やや粘質あり。1cm 大小礫含む。やや硬質。シルト質に近い細かい粒子主体。

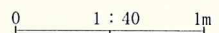


**SK36**

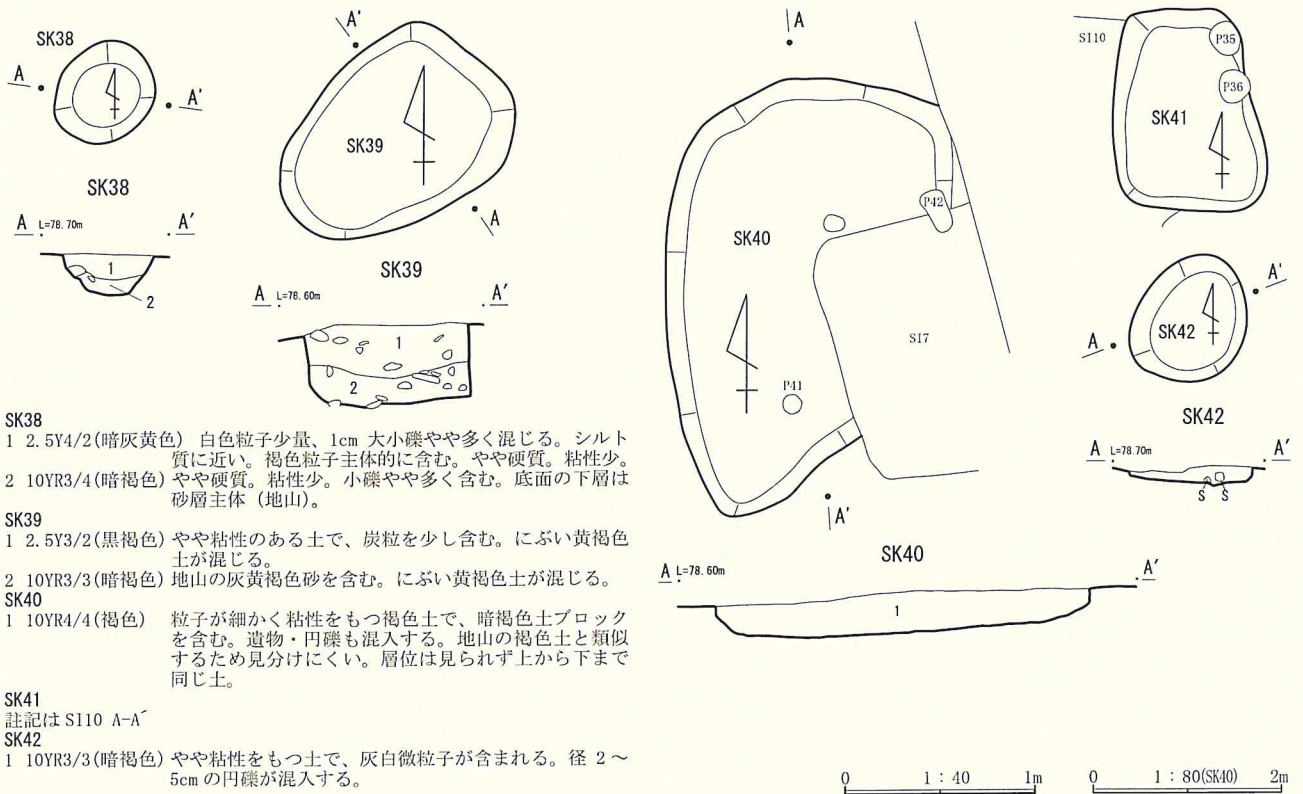
- 1 10YR3/3(暗褐色) SK35-1. 2層に似る。細かい粒子主体。
- 2 10YR3/4(暗褐色) 1層より褐色粒子多く明るい。SK35-1. 2層に似る。

**SK37**

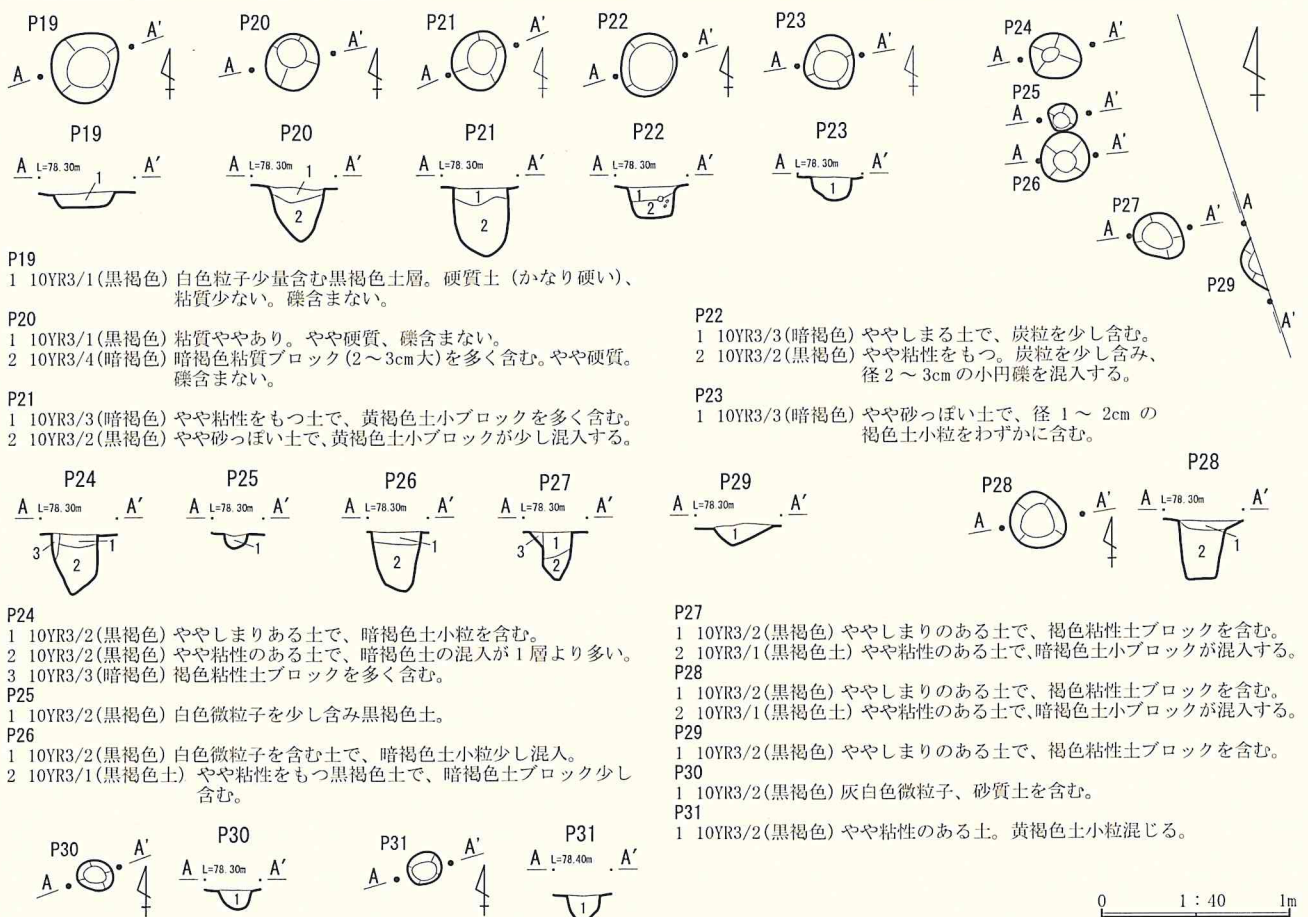
- 1 2.5Y4/2(暗灰黄色) 1~2cm 大小礫多量に含む。粒子の細かいシルト質多く含む。やや硬質。粘質少あり。



第 16 図 SK23 ~ 37 遺構図

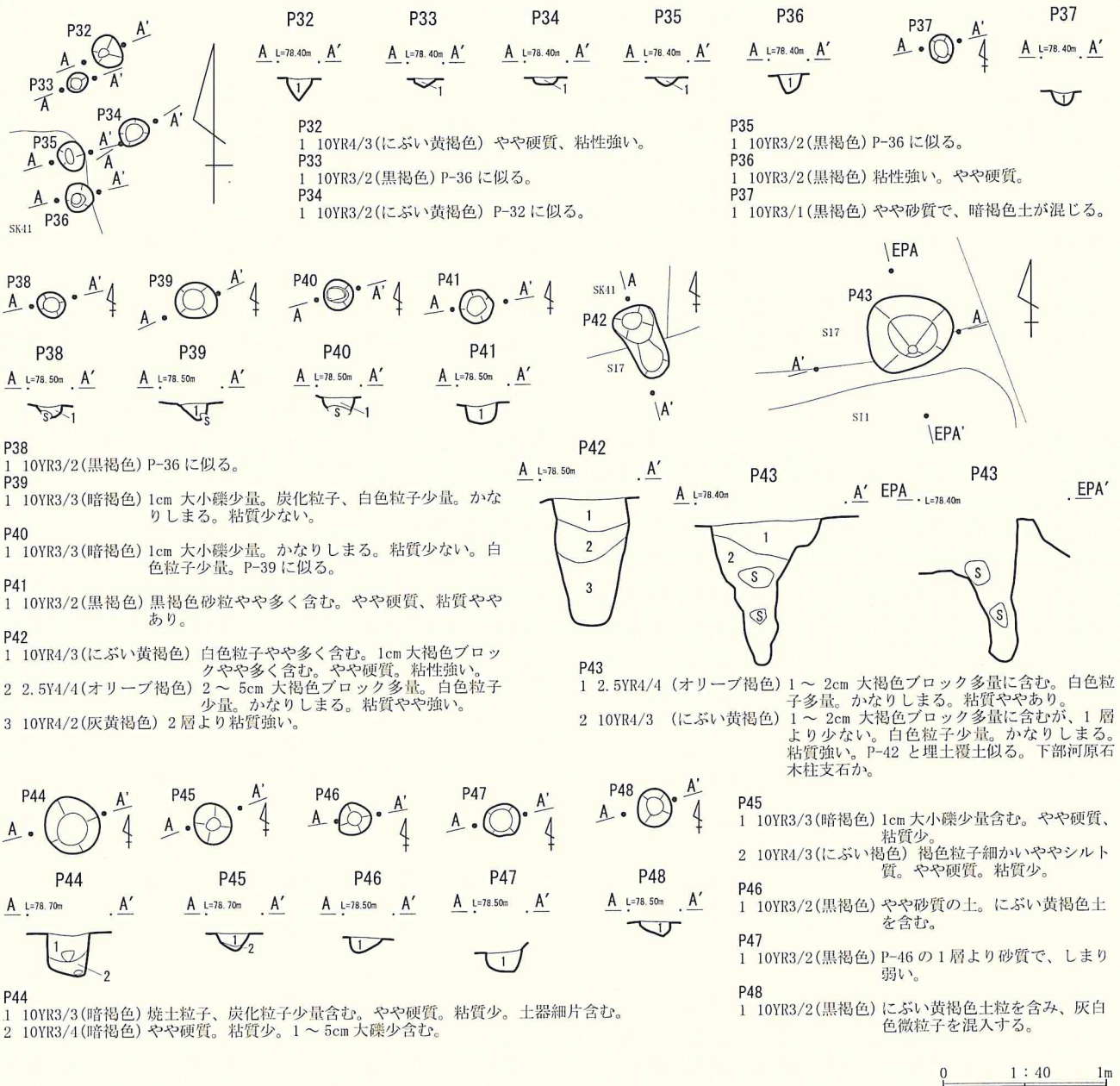


第 17 図 SK38 ~ 42 遺構図



第 18 図 P19 ~ 31 遺構図





第19図 P32~48 遺構図

床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物10点(No.32~41)。床面直上からはNo.35が出土し、P5からは土師器甕No.38・須恵器甌No.39が出土している。所見：出土遺物から、10世紀代と推定される。

### 土坑 (SK)

SK23~42 (遺構：第16・17図/遺物：第24図/第5表)

古代遺構面のほぼ全域に散在し、20基検出した。各土坑の一覧は第5表にまとめた。性格・時期が判断できるものはわずかで、多くは時期など判断できない。SK40は調査時の呼称番号のまま掲載しているが、竪穴住居の可能性はある。

柱穴 (P)

P19～48 (遺構：第 18・19 図／第 6 表)

古代遺構面のほぼ全域に散在し、29 基検出した。各柱穴の一覧は第 6 表にまとめた。多くは伴出遺物がなく、性格・時期など判断できない。

第 5 表 古代土坑一覧表

番号 SK	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
23	円形	箱形	98	94	13	土師器片・須恵器片	—
24	不整形円形	皿状	104	42	25	土師器片	—
25	円形	皿状	70	64	10	土師器片	—
26	円形	皿状	70	64	10	土師器片	—
27	不整形円形	皿状	78	76	13	土師器片	—
28	円形	皿状	122	56	15	土師器片	SI3 を切る
29	円形	皿状	92	86	22	なし	SI3 を切る
30	不整形円形	半球形	158	18	20	なし	—
31	長方形	箱形	100	80	24	No. 72	—
32	円形	半球形	86	74	39	土師器片・須恵器片	SI8 を切る
33	円形	箱形	84	72	23	須恵器片	SI8 を切る
34	円形	皿状	92	62	23	土師器片	SI3 を切る
35	円形	皿状	56	54	13	なし	—
36	円形	皿状	50	50	9	なし	—
37	円形	逆台形	72	32	20	なし	—
38	円形	半球形	52	52	21	なし	—
39	楕円形	箱形	128	92	41	No. 73	—
40	長方形	皿状	420	300	43	No. 74 ～ 78	SI7・SK11・P41・P42 に切られる
41	長方形	箱形	106	78	38	なし	SI10 を切る
42	円形	皿状	70	60	10	土師器片	—

第 6 表 古代柱穴一覧表

番号 P	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
19	円形	逆台形	37	36	8	なし	—
20	円形	筒形	28	28	28	なし	—
21	円形	筒形	30	28	35	なし	—
22	円形	箱形	32	32	16	土師器片・須恵器片	—
23	円形	半球形	28	27	12	須恵器片	—
24	円形	筒形	26	24	32	なし	—
25	円形	半球形	14	14	6	なし	—
26	円形	筒形	26	26	31	土師器片	—
27	円形	筒形	26	24	25	なし	—
28	円形	筒形	30	28	31	なし	—
29	不整形円形	皿状	26	9	11	なし	—
30	円形	半球形	18	17	10	なし	—
31	円形	半球形	18	16	14	なし	—
32	円形	半球形	22	19	13	なし	—
33	円形	皿状	12	12	5	なし	—
34	円形	皿状	18	15	4	なし	—



35	円形	皿状	18	15	5	なし	SK41 を切る
36	円形	半球形	18	14	11	なし	SK42 を切る
37	円形	半球形	17	18	11	なし	—
38	円形	半球形	16	16	7	なし	—
39	円形	半球形	24	24	10	なし	—
40	円形	半球形	19	18	7	なし	—
41	円形	皿状	22	20	11	なし	—
42	楕円形	筒形	46	22	38	なし	SI7・SK40 を切る
43	円形	筒形	52	46	43	なし	SI7 を切る
44	円形	箱形	36	34	25	土師器片	—
45	円形	皿状	25	22	11	なし	—
46	円形	皿状	20	20	9	なし	—
47	円形	皿状	22	20	11	なし	SI10 を切る
48	円形	皿状	22	22	8	なし	—

#### 第4節 小結

調査地は鑄川・鮎川・烏川の3河川が合流する氾濫域という立地条件であるものの、過去に山名戸矢遺跡の調査で古墳から平安時代の集落が多数確認された成果がある。この成果を裏付けるように、山名南若宮遺跡でも、平安時代の竪穴住居跡8軒および古代の土坑・柱穴、中世の土坑・柱穴・集石遺構など数多くの遺構を検出した。

確認された竪穴住居跡の時期は、概ね10世紀前半から中頃に属するもので、山名戸矢遺跡の調査事例と合わせ周辺集落は古代山部郷に属する集落域と想定される。検出した住居跡は、調査区の中でも東寄りが多く確認しており、集落域は東方に密に分布すると考えられる。これは堆積地層において、レベルの高い西側は地山に礫が多く含まれるため、礫の含有が少ないV・VI層が堆積する西寄りを選定して住居を構築したものと考えられる。カマドについては、SI1・8・9・10において、主軸をN-80°-EからN-88°-Eのほぼ同一方向で確認し、壁辺の中心よりやや右寄りに付設される特徴がある。

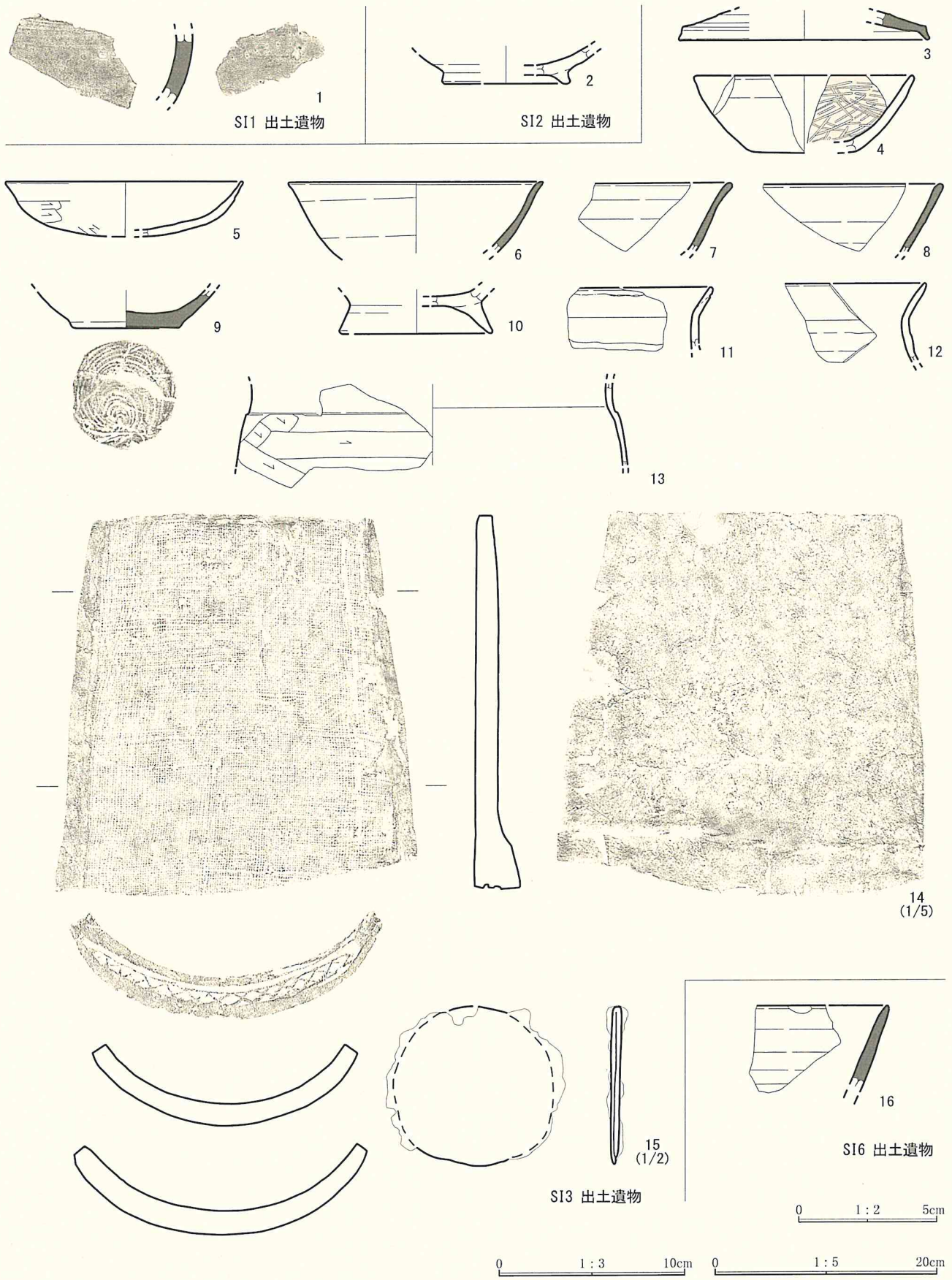
出土遺物では、SI1の床面直上から軒平瓦の完形品(No.14)が出土した。隣接する山名戸矢遺跡87号住居からも、「辛枚万呂」と刻字された丸瓦の完形品が出土しており、転用瓦を有する住居跡が複数存在する。近隣の推定田端廃寺を含め、瓦葺き建物の所在にも注視する必要がある。また灰釉陶器については、山名戸矢遺跡の成果では確認された平安時代の住居跡3割に灰釉陶器が伴うと報告されているが、本遺跡からはSD1覆土中から破片が1点(No.43)出土したのみで、住居跡からの出土はない。

最後に出土土器の胎土についてであるが、肉眼観察のほか60倍率の拡大鏡で個々に観察を行った。実測図を掲載した古代の土器74点(9世紀から10世紀代)のうち約7割(51点)は、角礫状の白色～透明に近い鉱物粒(石英・長石など)や、雲母などの黒色鉱物粒を多く含有する藤岡・吉井窯跡群のものと考えられる製品であった。残り約3割(23点)は、角礫の混入が少なく均一緻密な胎土で、やや丸みのある白色鉱物粒・黒色鉱物粒のほか軟質灰白色粒・軟質赤褐色粒・黒色小斑点などが見られる製品で、藤岡・吉井窯跡群とは特徴が異なるグループである。本遺跡の位置から、背後の丘陵に連なる乗附観音山窯跡群(ヌカリ沢窯跡・乗附窯跡など)の製品の可能性が高く考えられる。器種別では、須恵器坏・坏蓋・椀・甕・壺・長頸壺・鏝付き甑など多器種に乗附観音山窯跡群と考えられる製品が見られる。煮沸具の主たる須恵器羽釜については、掲載した8点全てに藤岡・吉井窯跡産の特徴が観察された。本遺跡の傾向としては、藤岡・吉井窯跡群の製品を主としつつ、観音山乗附窯跡群の製品も多器種を使用している様相がうかがえる。小調査の一遺跡での検討ではあるが、今後もこのような検討を時期別、器種別に詳細に重ねることで、古代山部郷の土器様相を解明できればと思う。

＜参考文献＞『山名戸矢遺跡』1993 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会

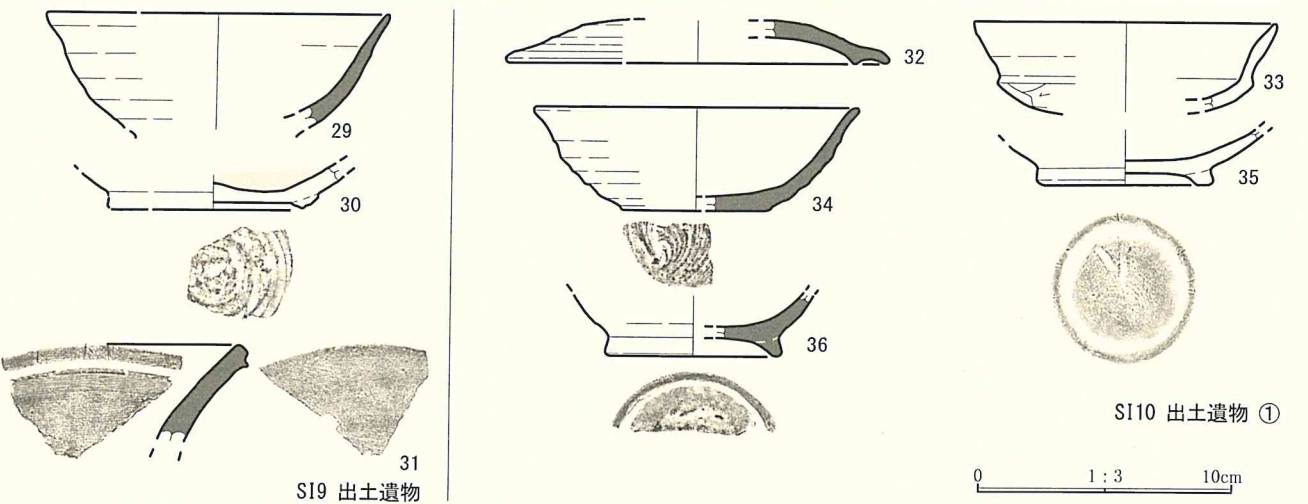
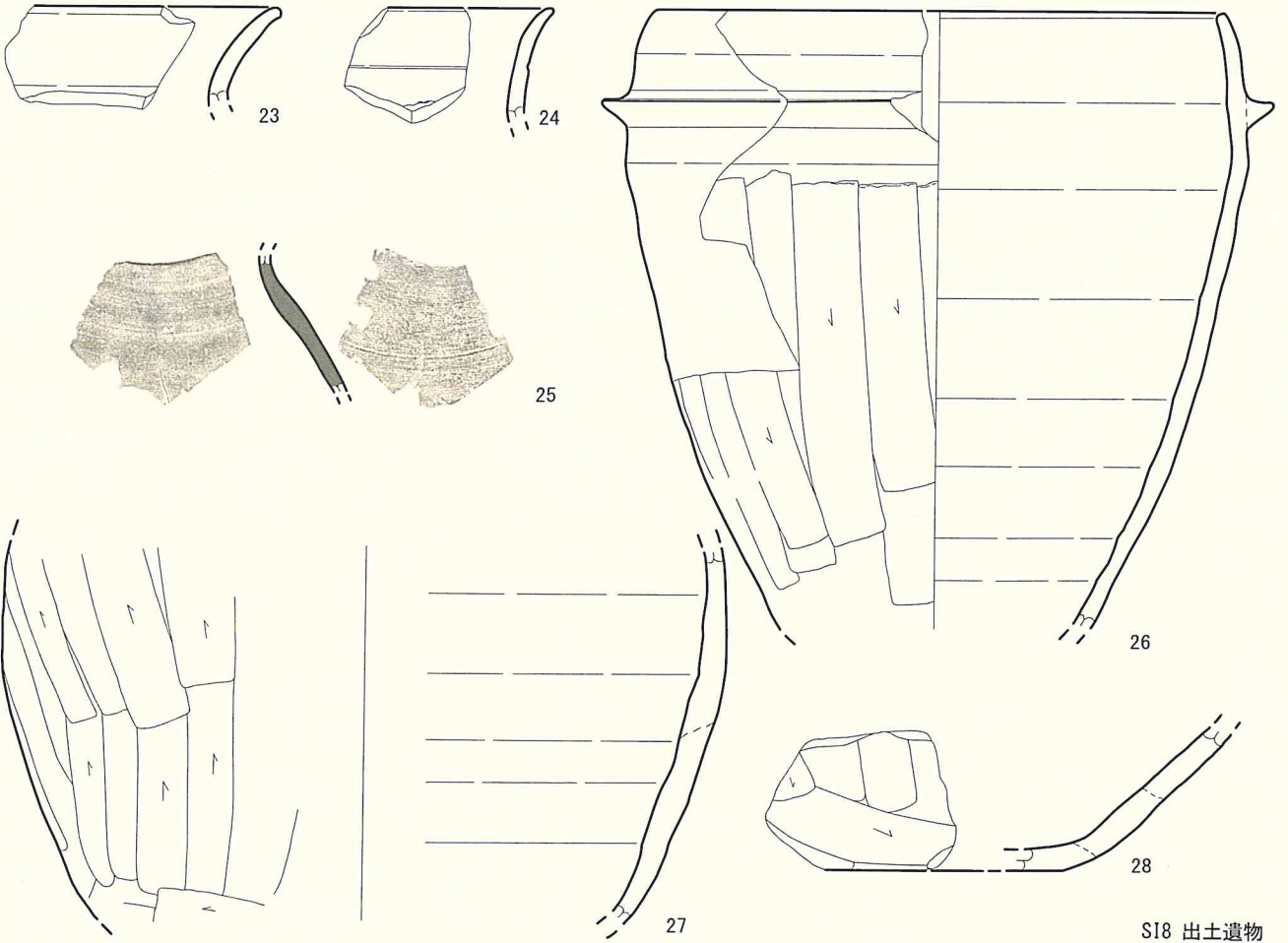
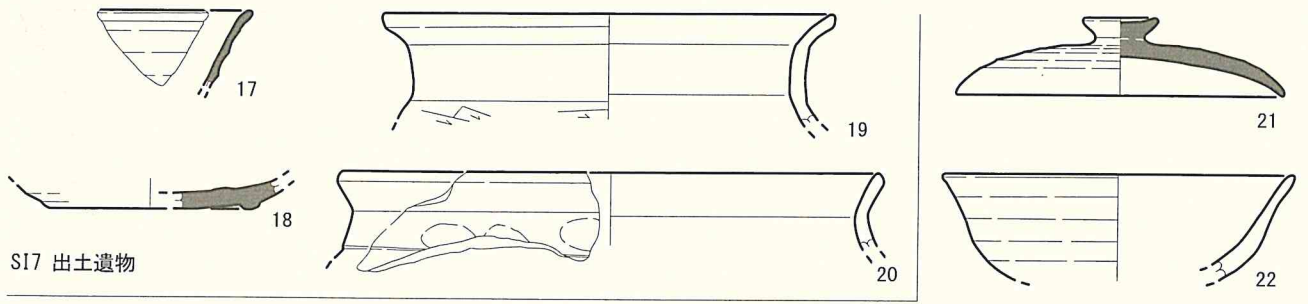
『ヌカリ沢A窯址発掘調査報告書』1995 吉井町教育委員会



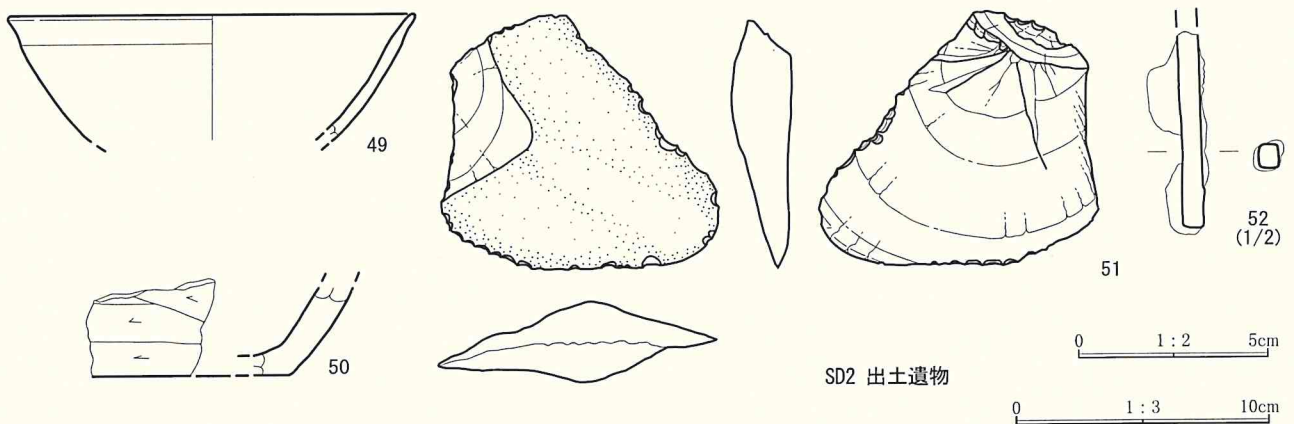
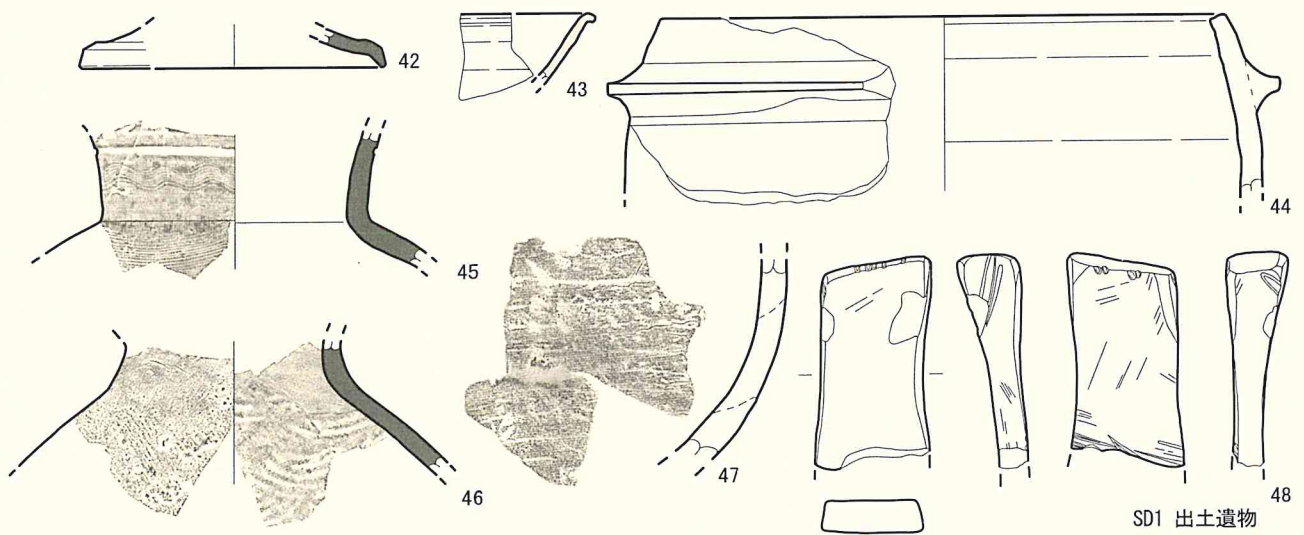
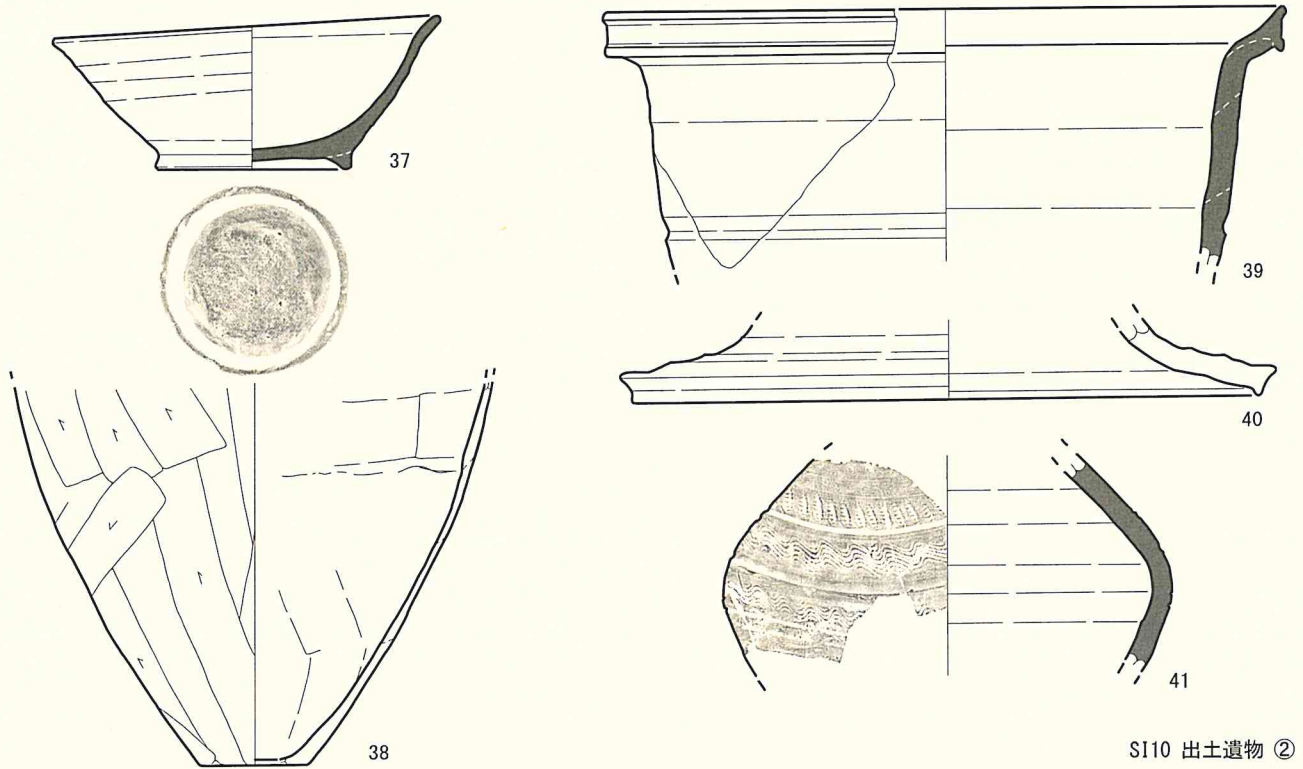


第 20 图 出土遺物图 (1)



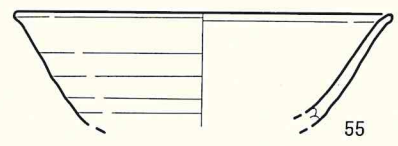
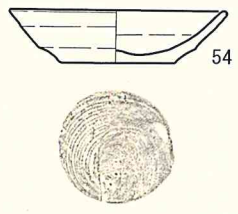
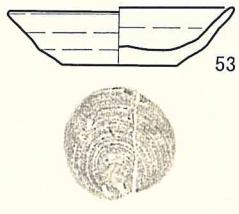


第 21 圖 出土遺物圖 (2)

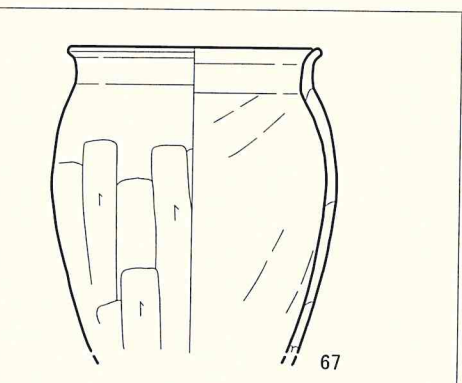
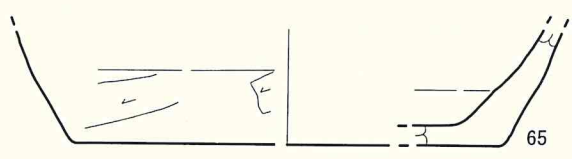
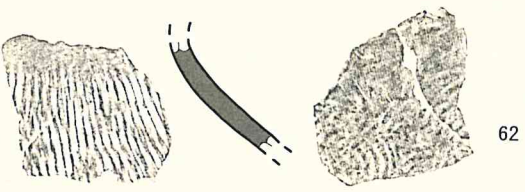
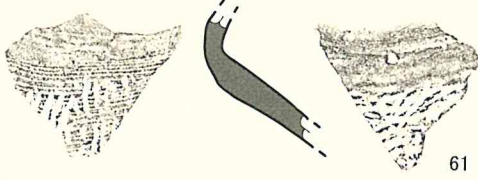
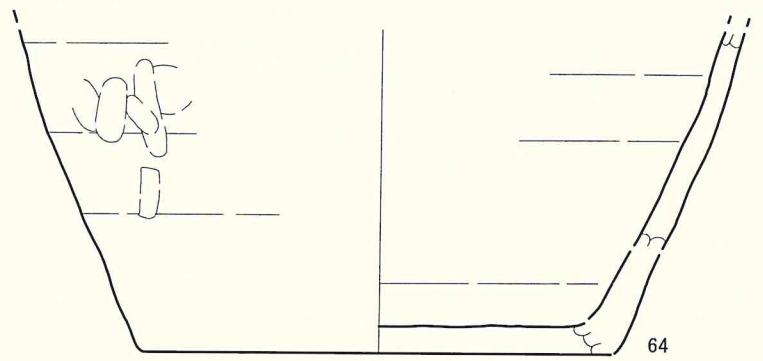
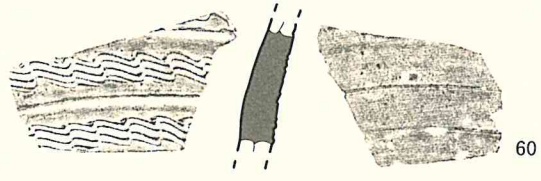
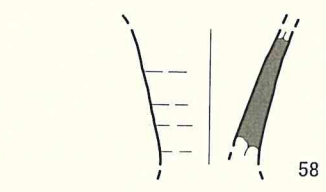
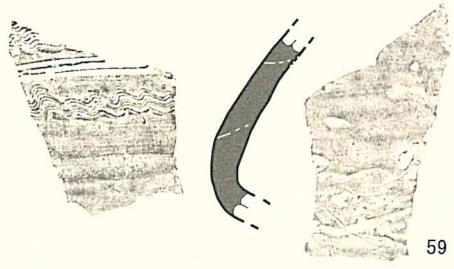
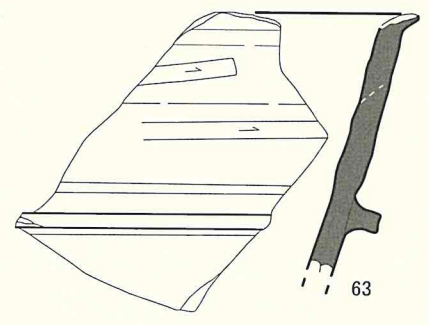
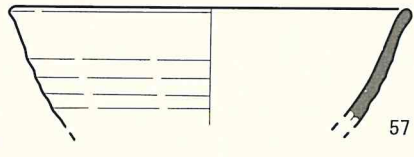


第22図 出土遺物図(3)

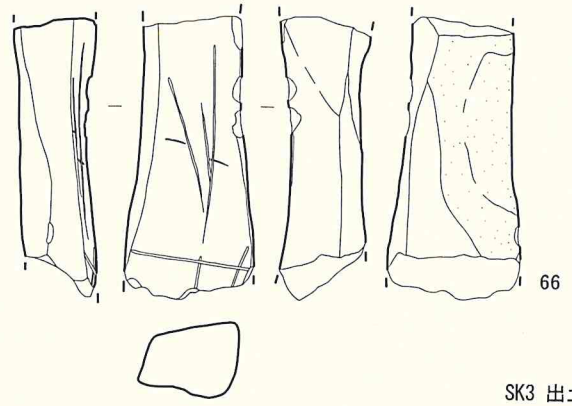




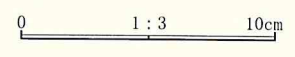
SD3 出土遺物



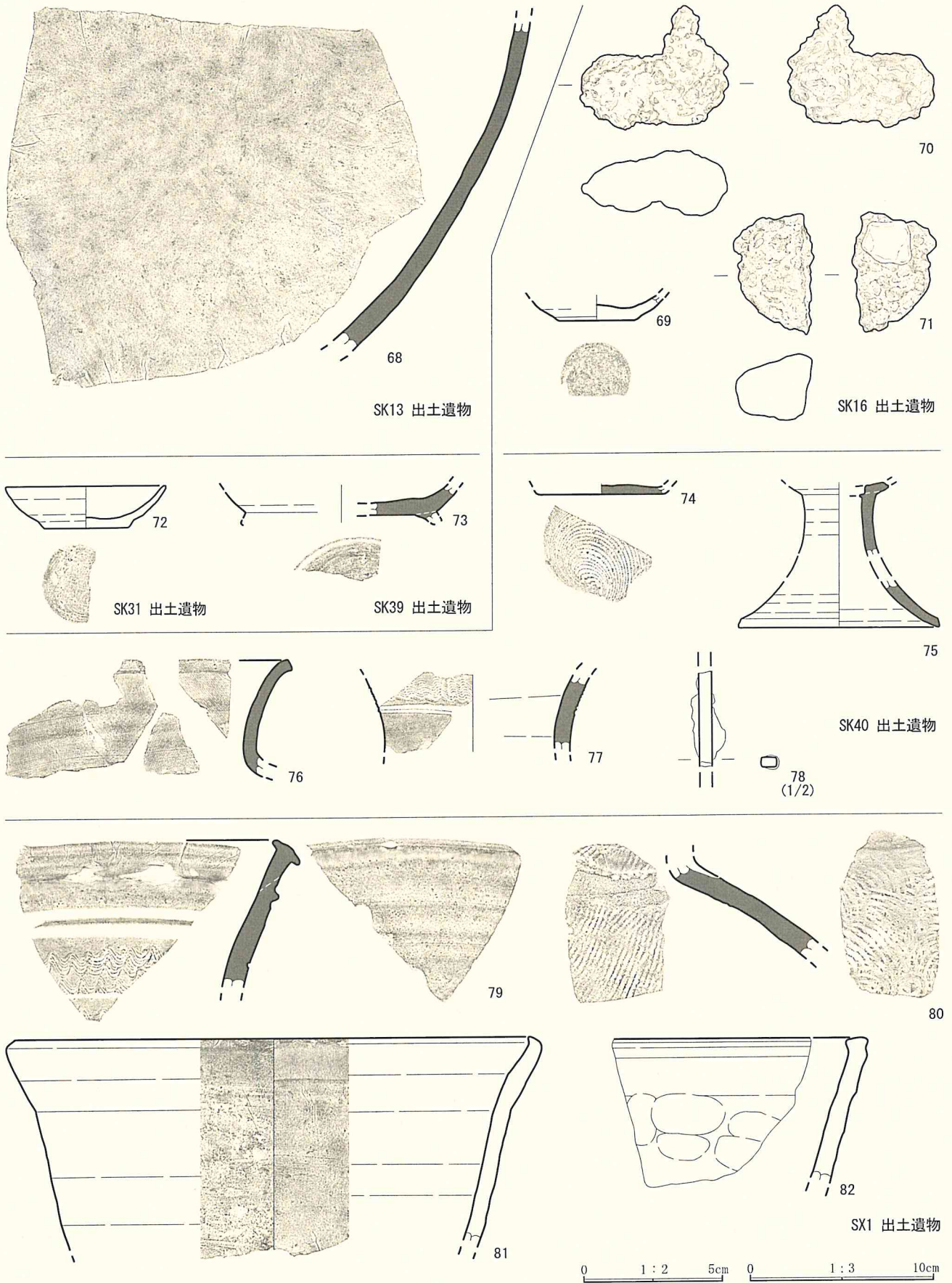
SK12 出土遺物



SK3 出土遺物

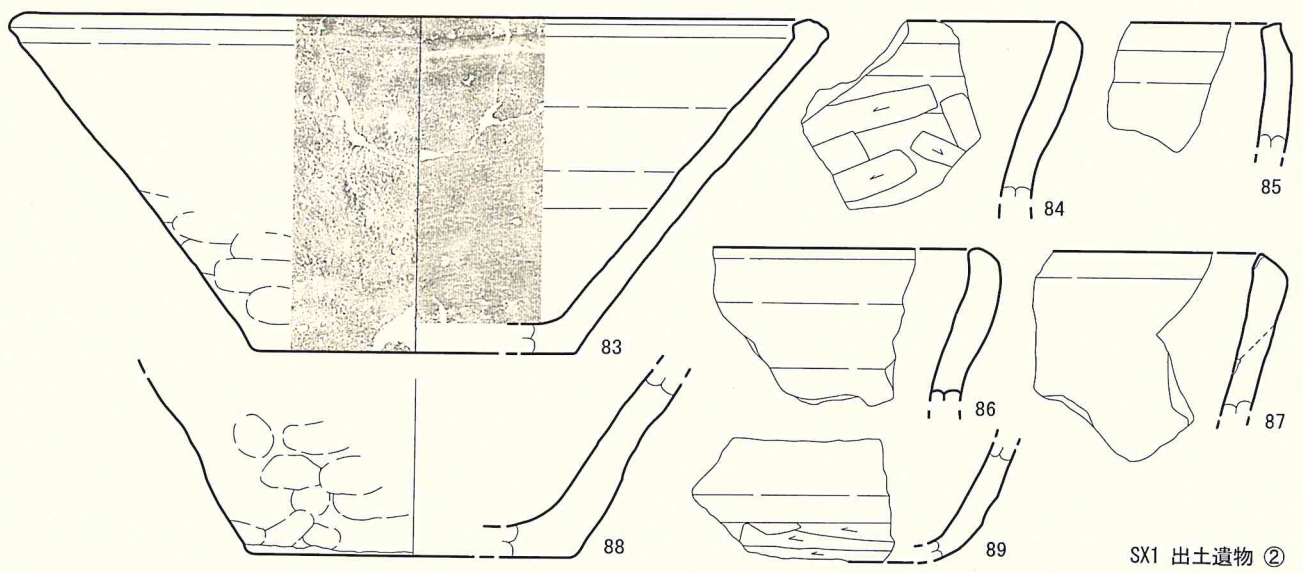


第 23 图 出土遺物图 (4)

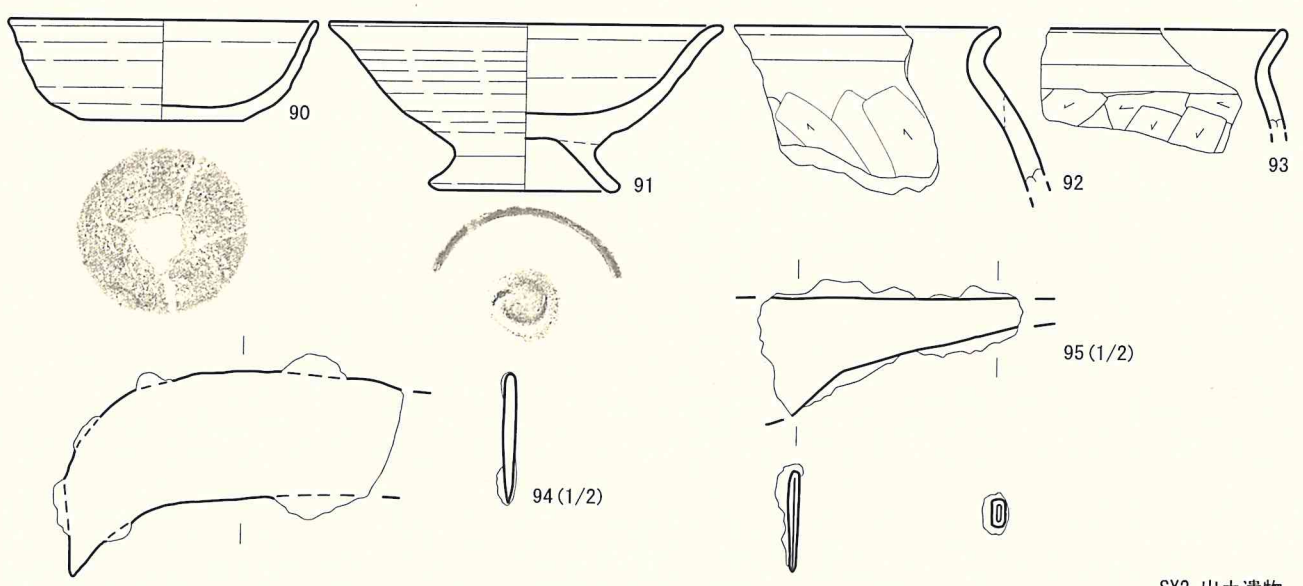


第 24 図 出土遺物図 (5)

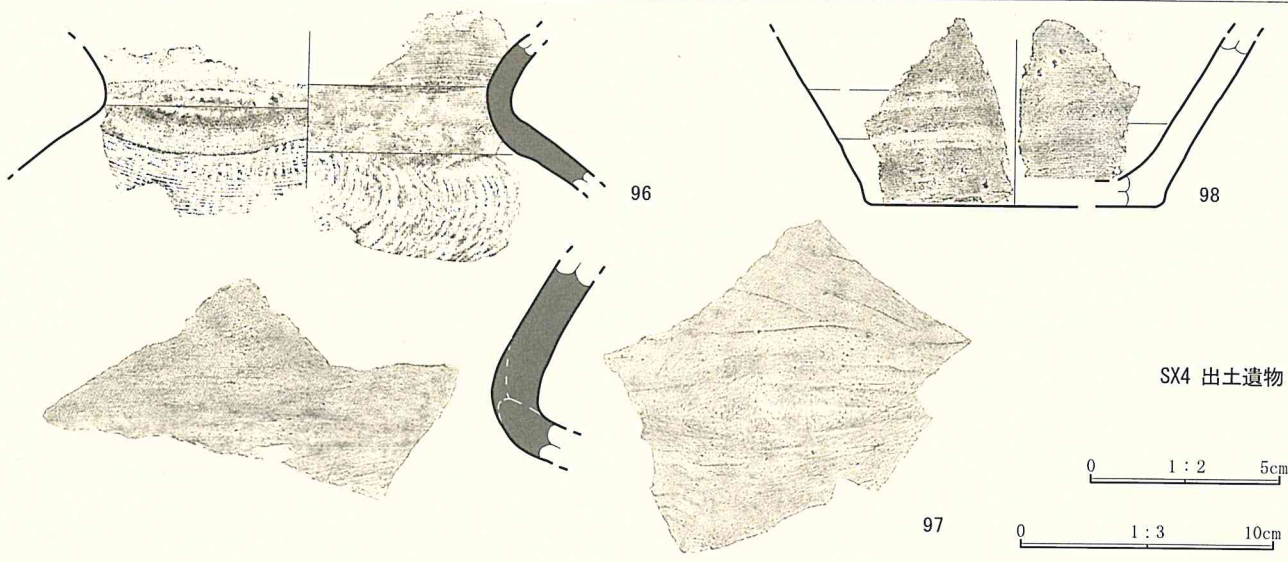




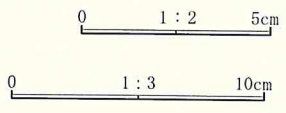
SX1 出土遺物 ②



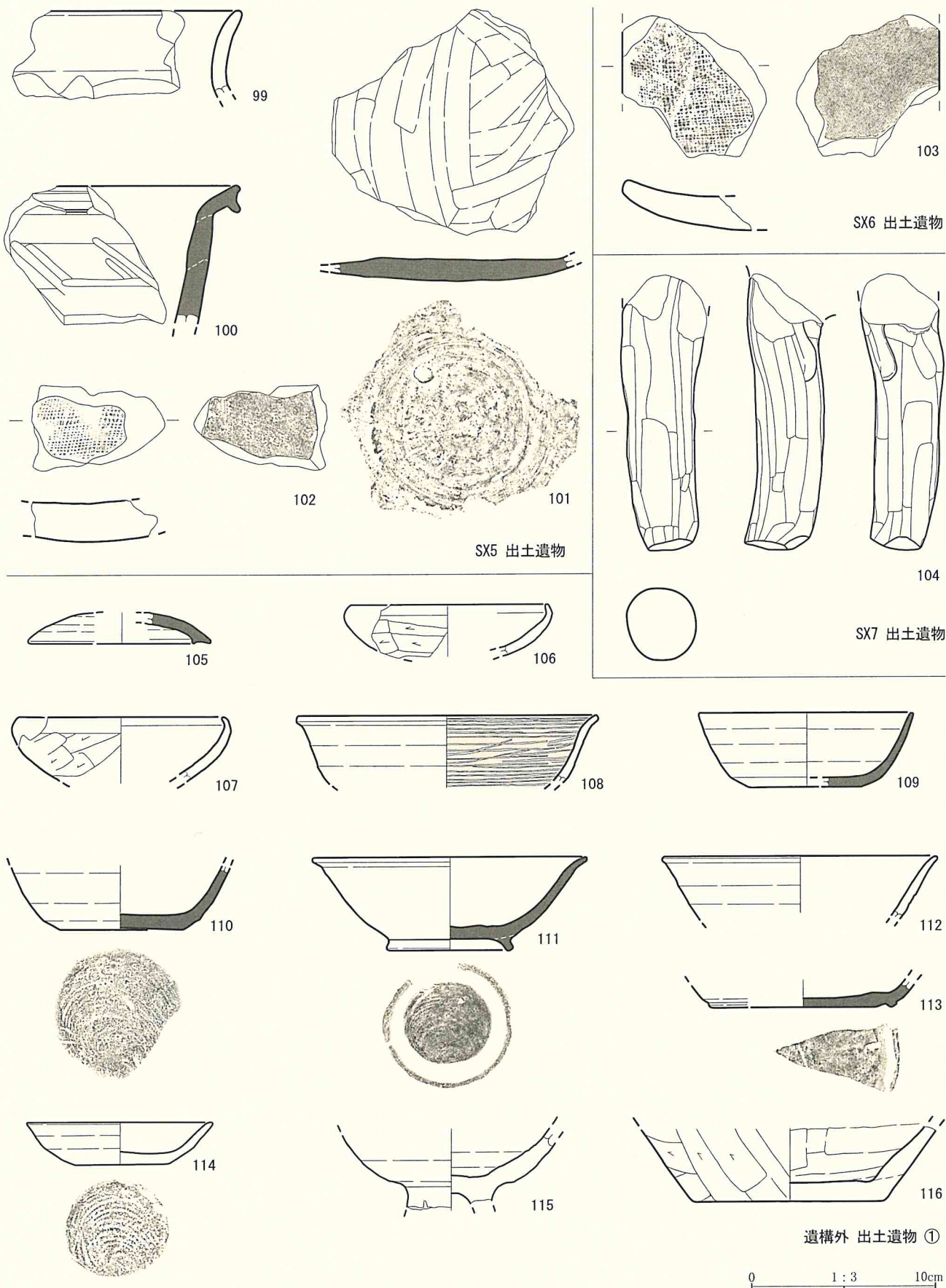
SX2 出土遺物



SX4 出土遺物

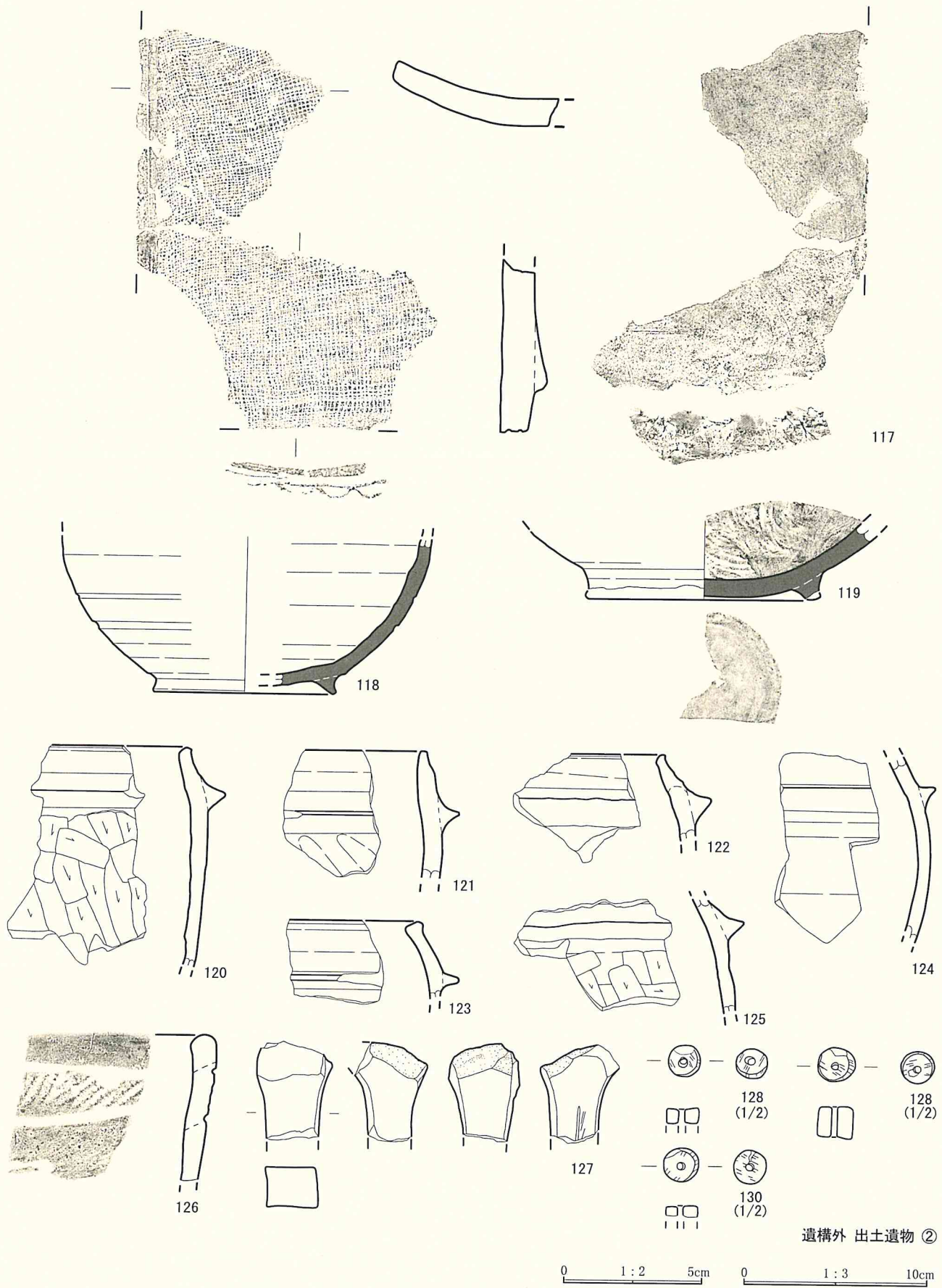


第 25 図 出土遺物図 (6)



第 26 図 出土遺物図 (7)





第 27 図 出土遺物図 (8)

## 第5節 SX7 出土三脚土器について

SX7より、三脚土器の脚部片1点が出土した。脚部のみの出土であり、胴部は確認されていない。

三脚土器は、群馬県内での出土例は非常に少ない。胴部形態が判別できるものでは、甕・鍋型がある。高崎市熊野堂遺跡では脚部を除く胴部が出土している。これは住居の竈から出土しており、脚部が欠損した後に土鍋として使用していた可能性が指摘されている。富岡市中沢平賀界戸遺跡では、脚部の一部と胴部が出土している。こちらも住居の竈から出土しており、土器表面に二次被熱の痕跡が確認されている。本遺跡から出土した脚部片については、同様の用途で使用されていたならば二次被熱の痕跡が見られるはずだが、その痕跡が認められないことから、煮炊き具として使用されていた可能性は低い。藤岡市株木B遺跡では、脚部の一部と胴部が住居より出土している。こちらは上記の資料とは違い、胴部が甕型をしており年代も8世紀前半とやや古い。

また、三脚土器は調査例が増加した昨今においても出土量は極めて限定されることから、日常の煮炊き具として使用されたものではなく、儀式的な場面で使用された土器の可能性が指摘されている(古川2014)。加えて、県内出土のものは脚部のみの破片資料が多く、胴部形態を判別できない資料が大多数である。本遺跡から出土した脚部片もこれに該当しており、詳細な時期判定や性格の判断は難しいと思われる。しかし、過去の出土例をみると8世紀～10世紀代との年代判定がされており、本遺跡から出土した脚部片についても過去の例と近い年代だと考えられる。なお、過去の資料を含めて分布傾向をみると、鏑川流域に属する富岡市・吉井町・藤岡地域に分布の偏りが見られることは興味深い(島田)。

第7表 県内出土三脚土器一覧表

No.	遺跡名	出土遺構	時期	備考	文献
1	山名南若宮遺跡(高崎市山名町)	SX 7	不明	脚部片。	本書
2	中沢平賀界戸遺跡(富岡市)	I区3号住 竈内	10世紀前半	小型の羽釜に3本の脚がつく。	1
3	南蛇井増光寺遺跡(富岡市)	遺構外(DS区表採)	不明	脚部片。	2
4	南蛇井増光寺遺跡(富岡市)	遺構外(試掘1区10トレンチ)	不明	脚部片。	3
5	熊野堂遺跡(高崎市井出町)	98号住 竈内	10世紀第1四半期	小型の羽釜に3本の脚がつく。脚部欠損のまま再利用か。	4
6	元総社寺田遺跡(前橋市元総社町)	VI区III層	古代	体部と脚の接合部破片。	5
7	下東西清水上遺跡(前橋市青梨町)	3区55号溝	古代	脚部片。	6
8	株木B遺跡(藤岡市上戸塚町)	DH-51号住	8世紀第1四半期	甕型の胴部に3本の脚がつく。	7
9	東場脇遺跡(高崎市吉井町)	36号住	9世紀後半	体部と脚の接合部破片。	8
10	東場脇遺跡(高崎市吉井町)	遺構外(表土中)	不明	体部と脚の接合部破片。	8

### (参考文献)

古川一明 2014 「古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について」『東北歴史博物館研究紀要』15 東北歴史博物館

### (文献)

1. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『中沢平賀界戸遺跡』第199集
2. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『南蛇井増光寺遺跡IV』第196集
3. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『南蛇井増光寺遺跡VI』第227集
4. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『熊野堂遺跡(2)』第100集
5. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『元総社寺田遺跡III』第208集
6. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『下東西清水上遺跡』第239集
7. 藤岡市教育委員会 1991 『株木B遺跡』
8. 吉井町教育委員会 2003 『長根遺跡群VIII』





1. 山名南若宮遺跡 (SX 7)
2. 中沢平賀界戸遺跡 (I 区 3 住)
3. 南蛇井増光寺遺跡 (DS 区表採)
4. 南蛇井増光寺遺跡  
(試掘 1 区 10 トレンチ)
5. 熊野堂遺跡 (98 住)
6. 元総社寺田遺跡 (VI 区 III 層)
7. 下東西清水上遺跡 (3 区 55 溝)
8. 株木 B 遺跡 (DH-51 住)
9. 東場脇遺跡 (36 住)
10. 東場脇遺跡 (遺構外表土)

0 1:5 10cm

第 28 図 群馬県内出土三脚土器

## 第7表 出土遺物観察表

S11

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③石英、黒色粒、白色粒 ④胴部下半破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	一括 S101. B フク土

S12

2	須恵(土師質) 椀	口径：— 底径：(7.0) 器高：(2.1)	①酸化気味 やや軟質 ②暗褐色 ③黒色粒、白色粒、細砂粒、(乗附産か) ④底部 1/5	外面 轆轤整形。高台貼付時周辺撫で。 内面 轆轤整形。	一括 S102. B フク土
---	--------------	------------------------------	---	--------------------------------	-------------------

S13

3	須恵器 蓋	基底径：(11.6) 器高：(1.6)	①還元 硬質 ②黒灰色 ③1mm大砂粒多く含む、石英、黒色粒 ④基底部破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	B区一括 S103. B フク土
4	内黒土器 坏	口径：(12.0) 底径：— 器高：(4.2)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、細砂粒 ④口縁～底部破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。口縁部横位筥研磨、体部斜縦位筥研磨。 黒色処理。	B区一括 S103. B フク土
5	土師器 坏	口径：(13.0) 底径：— 器高：(3.0)	①酸化 ②橙褐色 ③雲母、石英粒、片岩細粒、チャート ④口縁～底部 1/5	外面 口縁部横撫で、体部筥削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	B区一括 S103. B フク土
6	須恵器 椀	口径：(13.8) 底径：— 器高：(3.9)	①還元 やや硬質 ②灰色 ③石英、白色粒、雲母、片岩、1～3mm大小礫含む ④口縁 1/4	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	床面直上 S103- No. 2
7	須恵器 椀	口径：— 底径：— 器高：(3.7)	①還元 硬質 ②灰色 ③緻密だが所々2mm大礫含む、石英、黒色粒、雲母 ④口縁 1/5	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	床面直上 S103- No. 6
8	須恵器 椀	口径：— 底径：— 器高：(3.7)	①還元 硬質 ②灰褐色 ③片岩、黒色粒、白色粒、7mm大片岩小礫含む ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	A区一括 S103. A フク土
9	須恵器 坏	口径：— 底径：5.8 器高：(2.1)	①還元 やや軟質 ②灰色 ③雲母、石英、片岩粒 ④底部	外面 轆轤整形。底部右回転系切り。 内面 轆轤整形。	B区一括 S103. B フク土
10	須恵(土師質) 椀	口径：— 底径：(8.4) 器高：(2.5)	①酸化気味 やや軟質 ②淡橙色 ③石英、片岩、雲母、砂粒 ④底部 1/3	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	南壁サブトレー一括 S103. ST 南壁一括
11	土師器 甕	口・底径：— 器高：(3.4)	①酸化 ②暗橙褐色 ③石英、片岩、雲母 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で、輪積痕残る。 内面 口縁部横撫で。	B区一括 S103. B フク土
12	土師器 甕	口・底径：— 器高：(4.3)	①酸化 ②暗橙褐色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	A区一括 S103. A フク土
13	土師器 甕	口・底径：— 器高：(4.5)	①酸化 ②暗橙褐色 ③石英、片岩、雲母 ④頸部～肩部破片	外面 胴部右横方向筥削り。 内面 胴部横方向筥撫で。	B区一括 S103. B フク土
14	瓦	軒平瓦	一枚作り 長さ35.0cm 幅22.5(狭端部)～26.5(広端部)cm 厚さ1.5(狭端部)～4.3(広端部)cm 重さ4.200g ①還元 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(乗附産か) ④ほぼ完形		床面直上 S103- No. 8
15	鉄製品	紡錘車か	長さ5.7cm 幅6.5cm(鋳含む) 厚さ0.4cm 重さ47.32g 表裏面錆付着		S103- No. 1

S16

16	須恵器 椀	口径：— 底径：— 器高：(4.7)	①還元 硬質 ②暗灰色～黒灰色 ③石英、黒色粒、白色粒、やや緻密 ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	B区一括 S106. B フク土
----	----------	--------------------------	--	----------------------	---------------------

S17

17	須恵器 椀	口・底径：— 器高：(3.0)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	一括 S107. B フク土
18	須恵器 坏	口・底径：— 器高：(1.2)	①還元 硬質 ②灰褐色～灰色 ③黒色粒、白色粒、(乗附産か) ④底部破片	外面 削り出し高台、底部回転削り。 内面 轆轤整形。	一括 S107. B フク土
19	土師器 甕	口径：(18.0) 底径：— 器高：(4.4)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、長石、雲母 ④口縁 1/8	外面 口縁部横撫で、体部右横方向削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	床上10cm S107. No. 2
20	土師器 甕	口径：(21.6) 底径：— 器高：(3.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、頁岩 ④口縁 1/8	外面 口縁部横撫で、コ字型屈曲部分指頭圧痕による整形。体部右横方向削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	一括 S107. B フク土

S18

21	須恵器 蓋	基底径：(13.0) 器高：3.1	①還元 硬質 ②灰色 ③石英、雲母、黒色粒、白色粒、 1mm大の砂粒多く含む。 ④1/4	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	B区 S108. B フク土
22	須恵(土師質) 椀	口径：(10.0) 底径：— 器高：(4.2)	①酸化 やや軟質 ②橙褐色 ③片岩、石英、砂粒 ④口縁～下半部 1/4	外面 轆轤整形。轆轤目多く整形。 内面 轆轤整形。	床上5cm S108- No. 10
23	土師器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 やや軟質 ②橙褐色 ③1～2mm大砂粒多く含む、黒色粒、 白色粒、片岩、石英 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	B区 S108. B フク土
24	土師器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.6)	①酸化 ②暗褐色 ③1～2mm大砂粒多く含む、黒色粒、 白色粒、片岩、雲母 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	B区 S108. B フク土
25	須恵器 甕	口・底径：— 器高：(5.5)	①還元 やや軟質 ②灰白色 ③黒色粒、やや緻密、(乗附産か) ④肩部破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	B区 S108. B フク土



番号	器種	量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
26	須恵(土師質)羽釜	口径: 23.0 底径: — 器高: 25.0	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、片岩、長石、赤褐色粒(腐れ礫) 1mm大の粗粒多く含む ④1/4 底部欠損	外面 轆轤整形。罅帯貼付時周辺撫で。 罅下半方向縦径筒削り。 内面 轆轤整形。	カマド SI08-No.6.15.17. 18.19
27	須恵(土師質)甕	口径: — 底径: — 器高: (15.0)	①酸化 ②暗褐色 ③1~3mm大砂粒含む、石英、白色粒、片岩 赤褐色粒(腐れ礫) ④胴部下半	外面 轆轤整形。上方筒削り。 内面 轆轤整形。	床上10cm SI08-No.8
28	須恵(土師質)甕	口・底径: — 器高: (5.5)	①酸化 ②橙色 ③石英、白色粒、砂粒、粗粒主体 ④底部破片	外面 下方筒削り。 内面 筒撫で。	カマド SI08-No.16.17

## S19

29	須恵器 坏	口径: (13.5) 底径: — 器高: (4.5)	①酸化 ②橙色 ③片岩、石英、白色粒、砂粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	C区一括 SI09.C フク土
30	内黒土器 椀	口径: — 底径: (8.0) 器高: (1.9)	①やや酸化気味 ②黒褐色 ③片岩、雲母、長石、白色粒、砂粒 ④底部 1/5	外面 轆轤整形。高台貼付時周辺撫で。 底部回転系切り(磨滅により左右不明)。 内面 横方向筒研磨、黒色処理。	C区一括 SI09.C フク土
31	須恵器 甕	口・底径: — 器高: (3.8)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、砂粒、 暗赤褐色粒、(乗附産か) ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部無文。口唇部に1条の沈線施す。 内面 轆轤整形。	A区一括 SI09.C フク土

## S110

32	須恵器 蓋	基底径: (15.0) 器高: (1.7)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒(石英か)、黒色粒、やや緻密、 ④基底部~頂部 1/5	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	P5一括 SI10.P5 フク土
33	土師器 坏	口径: 12.0 底径: — 器高: (3.5)	①酸化 ②橙色 ③砂粒、白色粒、黒色粒、赤褐色粒 ④1/4	外面 口縁部横撫で、体部左方向筒削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	床上15cm SI10-No.12
34	須恵器 坏	口径: (12.8) 底径: (3.0) 器高: (4.1)	①還元 やや軟質 ②暗灰色~灰褐色 ③片岩、石英、チャート、1~2mm大砂礫含む ④口縁~底部 1/4	外面 轆轤整形。底部左方向回転系切り。 内面 轆轤整形。	床上5cm SI10-No.26
35	須恵(土師質) 椀	口径: — 底径: 7.0 器高: (2.2)	①酸化気味 軟質 ②暗褐色 ③1~2mm大砂礫含む、片岩、石英、黒色粒 ④底部	外面 体部轆轤整形。高台貼付時周辺撫で。 底部左回転系切り。 内面 体部轆轤整形。	床面直上 SI10-No.22
36	須恵器 椀	口径: — 底径: (7.0) 器高: (2.5)	①還元 やや軟質 ②黒灰色 ③片岩、雲母、石英、白色粒 ④底部 1/2	外面 体部轆轤整形。高台貼付時周辺撫で。 底部系切り(磨滅により左右不明) 内面 体部轆轤整形。	P3一括 SI10.P3 フク土
37	須恵器 椀	口径: 15.3 底径: 7.5 器高: 5.7	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石英、白色粒 ④ほぼ完形 3/4	外面 体部轆轤整形。高台貼付時周辺撫で。 底部系切り(磨滅により回転方向不明)。 内面 体部轆轤整形。	床上5cm SI10-No.12
38	土師器 甕	口径: — 底径: (4.2) 器高: (15.2)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、赤褐色粒(腐れ礫) チャート ④胴下半~底部 1/2	外面 底部~胴部上方筒削り。 内面 底部~胴部筒撫で、磨滅により方向不明。 中位に粘土帯接合痕。	P5内 SI10-No.61
39	須恵器 瓶	基底径: (27.0) 器高: (10.3)	①還元 ②灰色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁 1/5	外面 口縁~体部轆轤整形。突帯貼付の剥離痕あり。 内面 口縁~体部轆轤整形。	P5内 SI10-No.60
40	須恵(土師質) 瓶	基底径: (25.0) 器高: (3.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、チャート、黒色粒 ④基底部 1/3	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	床上10cm SI08-No.58S、 SK32
41	須恵器 蓋	口径: — 底径: — 器高: (4.6)	①還元 硬質 ②暗灰色~青味がかつた灰色 ③白色粒、黒色粒、緻密、(乗附産か) ④肩部 1/5	外面 轆轤整形。沈線区画により櫛歯状工具による列点 文1段、波状文2段を施文。 内面 轆轤整形。	床上10cm SI10-5 SD01-3区一括

## SD1

42	須恵器 蓋	基底径: (12.4) 器高: (1.7)	①還元 ②暗灰色 ③石英、砂粒、白色粒 ④破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	南側 SD01-3区一括
43	灰釉陶器 椀	口・底径: — 器高: (3.4)	①還元 ②灰~灰緑色 ③緻密、白色細粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。内外面漬掛け施釉。	南側 SD01-3区一括
44	須恵(土師質) 羽釜	口径: (22.2) 底径: — 器高: (7.4)	①酸化 ②暗褐色 ③1~2mm大粗粒多量、石英、片岩、安山岩、 雲母、長石、チャート ④口縁 1/5	外面 轆轤整形。罅帯貼付時周辺撫で。 内面 轆轤整形。	南側 下層 SD01-No.2
45	須恵器 長頸壺	口径: — 底径: — 器高: (5.4)	①還元 ②灰色 ③黒色粒、白色粒、長石、(乗附産か) ④頸部 1/2	外面 体部横方向カキ目。口縁部1条沈線の上下に 波状文1段施す。 内面 体部指撫で。	北側 下層 SD01-No.9
46	須恵器 甕	口径: — 底径: — 器高: (5.5)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、雲母 ④頸部	外面 体部板状工具叩き目。 内面 口頸部横撫で、体部当て具青海波文。	中央 下層 SD01-No.5.6
47	軟質陶器 甕	口径: — 底径: — 器高: (7.9)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、雲母、長石、砂粒 ④胴部破片	外面 粘土帯明瞭に残る。縦方向撫で。 内面 粘土帯明瞭に残る。縦方向撫で。	南側 下層 SD01-No.3 SD03
48	石製品	砥石	長さ 8.4cm 幅 4.5cm 厚さ 1.3~2.5cm 重さ 111.32g 石材: 砥沢石		SD01-No.1

## SD2

49	土師器 坏	口径: 16.0 底径: — 器高: 5.0	①酸化 ②暗褐色 ③石英、長石、黒色粒、砂粒 ④口縁 1/4	外面 口縁部横撫で、体部摩擦により不明。 内面 口縁部横撫で、体部摩擦により不明。	北側一括 SD02 フク土
50	軟質陶器 鍋	口・底径: — 器高: (3.8)	①還元 ②黒灰色 ③石英、黒色粒、砂粒 ④底部破片	外面 轆轤整形。底部周辺左横方向削り。スス付着。 内面 轆轤整形。	南側 上層 SD02-No.7
51	石器	スクレイパー	長さ 10.0cm 幅 11.0cm 厚さ 2.4cm 重さ 254.80g 石材: 頁岩		一括
52	鉄製品	鉄鏝か	長さ 5.4cm 幅 0.7cm 厚さ 0.5cm 重さ 12.72g		一括



## SD3

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
53	須恵(土師質)皿	口径: 8.9 底径: 4.6 器高: 2.3	①酸化 ②橙色 ③石英、片岩、白色粒 ④完形	外面 体部轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面 体部轆轤整形。	底面直上 SD03- No. 1 SX01 - No. 12
54	須恵(土師質)皿	口径: 8.8 底径: 4.6 器高: 2.1	①酸化 ②橙色 ③ 2~3 mm片岩礫多く含む、石英、雲母、粗礫含む ④完形	外面 体部轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面 体部轆轤整形。	底面直上 SD03- No. 2
55	須恵(土師質)椀	口径: (15.0) 底径: — 器高: (4.5)	①酸化 ②橙色 ③石英、片岩、雲母 ④口縁 1/4	外面 体部轆轤整形。 内面 体部轆轤整形。	底面 15cm 上 SD03- No. 3

## SK3

56	須恵器蓋	基底径: (14.4) 器高: (1.2)	①還元 硬質 ②灰色 ③やや緻密、雲母、片岩、石英粒 ④ 1/8	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	上層(集石中) SK03- No. 1
57	須恵器椀	口径: 16.0 底径: — 器高: (4.7)	①還元 やや軟質 ②灰色 ③片岩、石英、雲母、白色細粒 ④口縁~下半部 1/3	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。内面磨滅により轆轤面不明。	上層(集石中) SK03- No. 11
58	須恵器長頸壺	口径: — 底径: — 器高: (5.4)	①還元 ②灰色~黒灰色 ③雲母、石英粒、白色粒、胎土やや緻密 ④頸部 1/4	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	下層一括 SK03 下ソウ
59	須恵器甕	口径: — 底径: — 器高: (7.6)	①還元 硬質 ②橙色 ③石英、片岩、雲母、白色粒 ④頸部破片	外面 轆轤整形。口縁部3条沈線の上下に波状文1段施す。 内面 轆轤整形。	上層(集石中) SK03- No. 6
60	須恵器大甕	口径: — 底径: — 器高: (5.2)	①還元 硬質 ②灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(乗附産か) ④頸部破片	外面 轆轤整形。口縁部1条沈線の上下に波状文1段施す。 内面 轆轤整形。波状文3段以上施文。	中層一括 SK03 中ソウ
61	須恵器甕	口径: — 底径: — 器高: (5.3)	①還元 硬質 ②黒灰色 ③白色粒、チャート、黒色粒 ④頸~肩部破片	外面 轆轤整形。横方向カキ目施文後、 内面 轆轤整形。体部当て具青海波文。 柳歯状工具による列点文を肩部に施文。	中層一括 SK03 中ソウ
62	須恵器甕	口径: — 底径: — 器高: (4.5)	①還元 やや硬質 ②暗灰色 ③黒色粒、石英、白色粒、片岩砂粒 ④肩部破片	外面 轆轤整形。縦平行叩き。 内面 轆轤整形。体部当て具青海波文。	中層一括 SK03 中ソウ
63	須恵器甕	口径: — 底径: — 器高: (10.5)	①還元 やや硬質 ②暗灰色 ③雲母、片岩、砂粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部右横方向削り。 内面 轆轤整形。突帯貼付時周辺横撫で。	上層(集石中) SK03- No. 1
64	軟質陶器壺	口径: — 底径: (19.0) 器高: (13.0)	①還元 やや硬質 ②暗灰色 ③片岩、石英、黒色粒 ④胴部下半~底部 1/3	外面 轆轤整形。体部指頭圧痕。 内面 轆轤整形。底部平底、底面縦方向削り。	上層(集石中) SK03- No. 14. 15. 16 SK03 下ソウ
65	軟質陶器壺	口径: — 底径: (17.0) 器高: (4.5)	①還元 硬質 ②灰色~灰暗色 外面赤紫色 ③石英、片岩、黒色粒、白色粒 ④底部	外面 轆轤整形。底部周辺左方向削り。自然釉(赤紫色)。 内面 轆轤整形。	上層(集石中) SK03- No. 2
66	石製品	砥石	長さ(11.2cm) 幅5.1cm 厚さ3.5cm 重さ180.94g	石材: 牛伏砂岩 正面縦筋状に研磨痕。両端部欠損。	下層一括

## SK12

67	土師器小型甕	口径: 10.0 底径: — 器高: (12.1)	①酸化 ②橙色 ③片岩、石英、雲母 ④口縁~胴下半 1/5	外面 口縁部横撫で。体部上方向筒削り。 内面 口縁部横撫で。胴部筒撫で。	一括 SK12 フク土
----	--------	---------------------------------	-------------------------------------	---	----------------

## SK13

68	須恵器大甕	口径: — 底径: — 器高: (18.0)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④胴部下半破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。体部当て具痕。	底面直上 SK13- No. 1
----	-------	------------------------------	---	-----------------------------	---------------------

## SK16

69	須恵(土師質)皿	口径: — 底径: (4.3) 器高: (1.4)	①酸化 ②淡橙色 ③白色粒、赤褐色粒、(乗附産か) ④底部	外面 轆轤整形。底部右回転糸削り。 内面 轆轤整形。	一括 SK16 フク土
70	鉄製品	鉄滓	長さ4.3cm 幅5.3cm 重さ51.74g	磁力あり	一括
71	鉄製品	鉄滓	長さ4.2cm 幅2.6cm 重さ42.11g	磁力あり	一括

## SK31

72	須恵(土師質)皿	口径: 8.7 底径: 4.5 器高: 2.3	①酸化 ②橙色 ③片岩、石英、雲母、赤褐色粒 ④ 1/2	外面 轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	底面 10cm 上 SK31- No. 1
----	----------	-------------------------------	------------------------------------	-------------------------------	--------------------------

## SK39

73	須恵器壺か	口径: — 底径: (11.0) 器高: (2.0)	①還元 やや硬質 ②暗灰色 ③やや緻密、石英、褐色粒 ④底部 1/4	外面 轆轤整形。底部右回転削り。高台貼付時周辺横撫で。 内面 轆轤整形。	一括 SK39 フク土
----	-------	----------------------------------	--	---	----------------

## SK40

74	須恵器環	口径: — 底径: (7.0) 器高: —	①還元 硬質 ②黒灰色 ③白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④底部 1/2	外面 轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面 —	西側一括 SK40 ベルト西
75	須恵器高環	口径: — 底径: — 器高: (7.9)	①還元 ②暗灰色 ③褐色細粒(腐れ礫)、白色細粒、黒色細粒、 胎土緻密、(乗附産か) ④脚部 1/2	外面 轆轤整形。脚部2方向細長方形の透かし孔。 内面 轆轤整形。	一括 SK40 フク土
76	須恵器甕	口径: — 底径: — 器高: (6.0)	①還元 硬質 ②黒灰~暗灰色 ③白色細粒、褐色細粒、(乗附産か) ④口縁破片	外面 轆轤整形。自然釉付着。 内面 轆轤整形。自然釉付着。	一括 SK40 フク土



番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
77	須恵器壺	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④頸部破片	外面 轆轤整形。口縁部2本沈線の上に波状文1段施す。 内面 轆轤整形。	東側一括 SK40 フク土
78	鉄製品	鉄鏃	長さ3.5cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ4.59g	鉄鏃茎部か	SK40- No. 3

SX1

79	須恵器甕	口径：— 底径：— 器高：(8.0)	①還元 ②淡黄色～黄灰色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部沈線による隆帯1条、波状文2段。 内面 轆轤整形。	集石内一括 SX1 フク土
80	須恵器甕	口径：— 底径：— 器高：(7.0)	①還元 ②灰色 ③石英、黒色粒 ④頸部破片	外面 轆轤整形。体部平行叩き。 内面 轆轤調整。体部当て具青海波文。	集石内一括 SX1 フク土
81	軟質陶器内耳鍋	口径：(29.0) 底径：— 器高：(11.5)	①還元 ②黒灰色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁 1/5	外面 轆轤整形。スス付着、使用痕あり。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX01-No. 1
82	軟質陶器内耳鍋	口径：— 底径：— 器高：(8.1)	①酸化 ②橙褐色 ③片岩、石英、雲母 ④口縁破片	外面 轆轤整形。体部指頭圧痕による整形。 内面 轆轤整形。	集石下層 SX1 フク土
83	軟質陶器鉢	口径：(32.5) 底径：(12.5) 器高：13.3	①酸化気味 ②暗褐色 ③2～3mm大砂粒、石英、白色粒、長石 ④1/4	外面 口縁部横撫で、轆轤整形。 内面 体部下指頭圧痕による整形。 轆轤整形。	集石内 SX01-No. 14, 15 SX01 下ソウ
84	軟質陶器内耳鍋	口径：— 底径：— 器高：(7.5)	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩細粒、黒色粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX01-No. 11
85	軟質陶器鍋	口径：— 底径：— 器高：(5.1)	①還元 ②暗灰色～黒灰 ③石英粒、砂粒、片岩細粒、やや発砲気味 ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX01 下ソウ
86	軟質陶器内耳鍋	口径：— 底径：— 器高：(6.3)	①酸化気味 ②灰褐色 ③やや緻密、黒色粒、白色粒、片岩細粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。	集石下層 SX01 下ソウ
87	軟質陶器内耳鍋	口径：— 底径：— 器高：(8.3)	①還元 ②暗灰色 ③やや緻密、片岩、白色粒、黒色粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	集石下層 SX01 下ソウ
88	軟質陶器鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.5)	①酸化気味 ②暗灰色 ③石英、片岩、白色粒、砂岩	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。体部下指頭圧痕。	集石内上層 SX01-No. 7
89	軟質陶器鍋	口径：— 底径：— 器高：(4.8)	①還元 ②暗灰色～黒灰 ③石英、砂粒、片岩、やや発砲気味 ④底部破片	外面 轆轤整形、底部周辺左横方向削り。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX01-No. 5

SX2

90	須恵(土師質)坏	口径：12.3 底径：6.3 器高：4.0	①酸化 ②橙色 ③片岩、石英、黒色粒、赤褐色粒(腐れ礫) ④2/3	外面 轆轤整形。底部回転系切り。磨滅により方向不明。 内面 轆轤整形。	上層 SX02-No. 2, 3 2面 BE・AW・BW
91	須恵(土師質)椀	口径：(15.7) 底径：(6.8) 器高：(6.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、長石 ④ほぼ完形	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。口縁部横撫で。	上層 SX02-No. 1
92	土師器甕	口径：— 底径：— 器高：(6.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、1～2mm大砂粒多い ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。体部縦方向削り。 内面 口縁部横撫で。体部筒撫で。	一括 SX02 フク土
93	土師器甕	口径：— 底径：— 器高：(4.9)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、白色粒 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。体部左斜め方向削り。 内面 口縁部横撫で。体部筒撫で。	一括 SX02 フク土
94	鉄製品	曲刀鎌	長さ(8.7cm) 幅3.4cm 厚さ0.3cm 重さ65.90g	錆だまり多く付着。	SX02-No. 7
95	鉄製品	刀子	長さ(6.9cm) 幅3.2cm 厚さ0.3cm 重さ43.96g	錆だまり多く付着。	一括

SX4

96	須恵器甕	口径：— 底径：— 器高：(6.1)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③黒色粒、白色粒、(乗附産か) ④頸部～肩部破片	外面 肩部横方向カキ目施文。 内面 頸部以下当て具青海波文。	集石内上層 SX04-No. 8
97	須恵器甕	口径：— 底径：— 器高：(8.0)	①還元 硬質 ②暗褐色～クリーム褐色 ③石英、黒色粒、チャート(吉井産) ④頸部～肩部 1/5	外面 口縁部横撫で無施文。 内面 体部板状工具横方向叩き目。 口縁部筒撫で、体部当て具青海波文。	集石内上層 SX04-No. 3
98	軟質陶器鉢	口径：— 底径：(12.0) 器高：(6.6)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③石英、黒色粒、1mm大砂粒多く含む ④底部～胴下半 1/8	外面 轆轤整形。底部周辺指頭圧痕。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX04-No. 5

SX5

99	土師器甕	口径：— 底径：— 器高：(4.7)	①酸化 ②褐色 ③石英、片岩、2～3mm大砂礫含む ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	集石内上層 SX05-No. 4
100	須恵器椀	口径：— 底径：— 器高：(7.5)	①還元 ②灰色 ③黒色粒、白色粒、褐色粒、(乗附産か) ④口縁破片	外面 轆轤整形。棒状工具による撫で痕。 内面 轆轤整形。	集石内上層 SX05-No. 2
101	須恵器壺	口径：— 底径：— 器高：—	①還元 ②灰色～暗灰色 ③石英、片岩、雲母、白色粒 ④底部	外面 底部右回転削り。 内面 底部筒撫で。	集石内上層 SX05-No. 7
102	瓦	平瓦	長さ(4.7cm) 幅7.2cm 重さ79.60g ①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、チャート ④破片	線刻あり(吉井産)	集石内上層 SX05 フク土



## SX6

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
103	瓦	平瓦	長さ(7.7cm) 幅(7.8cm) 重さ105.31g ①還元 ②暗灰色 ③片岩、石英、黒色粒 ④破片 (吉井産)		集石内上層 SX07 フク土

## SX7

104	土師器 甕か	三脚	長さ(15.0cm) 幅4.5cm 重さ279.21g ①酸化 ②暗褐色 ③石英、黒色粒、白色粒、褐色砂礫 ④体部欠損 外面鋭削り。		底面直上 SX07- No.1
-----	-----------	----	---	--	--------------------

## 遺構外

105	須恵器 蓋	基底径:(9.0) 器高:1.7	①還元 ②灰褐色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(乗附産か) ④破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	南側東寄 2面 CE
106	土師器 坏	口径:(10.8) 底径:— 器高:2.9	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒 ④1/8	外面 口縁部横撫で、体部左横方向削り。 内面 口縁部横撫で、体部横方向撫で。	南側東寄 2面 CE
107	土師器 坏	口径:(11.2) 底径:— 器高:(3.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、黒色粒、チャート ④口縁 1/5	外面 口縁部横撫で、体部左横方向削り。 内面 口縁部横撫で、体部磨滅により調整不明。	中央東寄 2面 BE 2面-No.1.2
108	黒色土器 椀	口径:(16.3) 底径:— 器高:(3.8)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、赤褐色粒、黒色粒 ④口縁 1/4	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。 体部横方向研磨充填。黒色処理。	中央東寄 2面 BE
109	須恵器 坏	口径:(11.7) 底径:(6.0) 器高:3.1	①還元 ②灰白色 ③白色粒、砂粒、やや緻密、(乗附産か) ④1/4	外面 轆轤整形。底部右方向手持ち削り。 内面 轆轤整形。	中央東寄 3面 BE
110	須恵器 坏	口径:— 底径:(6.6) 器高:(3.5)	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、白色粒 ④下半~底部	外面 轆轤整形。底部右回転系切り。 内面 轆轤整形。体部磨滅により調整不明。	北側と中央西寄 2面 AW・BW
111	須恵器 椀	口径:(14.9) 底径:6.8 器高:5.1	①還元 やや軟質 ②灰褐色 ③白色粒、赤褐色粒、(乗附産か) ④ほぼ完形	外面 轆轤整形。体部磨滅により不明。 底部高台貼付時周縁撫で。底部左回転系切り。 内面 轆轤整形。体部磨滅により調整不明。	北側東寄 2面No.18・2面 AE
112	須恵(土師質) 椀	口径:(14.7) 底径:— 器高:(3.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、赤褐色粒、石英 ④口縁部 1/4	外面 轆轤整形。口縁部横撫で。 内面 轆轤整形。口縁部横撫で。	中央東寄 2面 BE No.3
113	須恵器 坏	口径:— 底径:(10.0) 器高:(1.5)	①還元 ②暗灰色 ③黒色粒、赤褐色粒(腐れ礫)、(乗附産か) ④底部	外面 轆轤整形。底部削り出し高台。 内面 轆轤整形。	中央西寄表土中 1面 BW
114	須恵(土師質) 皿	口径:10.0 底径:2.5 器高:2.3	①酸化 ②褐色 ③石英、雲母、褐色粒 ④1/2	外面 轆轤整形。底部右回転系切り。 内面 轆轤整形。	表土一括
115	須恵(土師質) 高坏	口径:— 底径:— 器高:(4.4)	①酸化気味 ②灰淡褐色 ③赤褐色粒、軟質白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④坏部下半	外面 轆轤整形。脚部三方透しの切り込みの上端部 が残る。 内面 轆轤整形。	中央東寄 2面 BE
116	土師器 甕	口径:— 底径:10.4 器高:4.1	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、長石 ④底部	外面 底部周辺上方削り。スス付着。 内面 底部周辺横方向鋭撫で。	南側東寄 2面 CE No.5
117	瓦	軒平瓦	長さ22.0cm 幅15.0cm 厚さ1.5cm ①還元 ②暗灰色 ③石英、白色粒、片岩少量、黒色粒 ④1/4 (吉井産)		北側・中央西寄 2面 AW・BW・BE
118	須恵器 壺	口径:— 底径:(9.7) 器高:(8.6)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、軟質灰白色粒、黒色粒、(乗附産か) ④胴下半~底部 1/4	外面 轆轤整形。体部に沈線2条。 底部高台貼付時周縁撫で。 内面 轆轤整形。	北側東寄 2面 AE
119	須恵器 壺	口径:— 底径:— 器高:(4.6)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(乗附産か) ④底部破片	外面 轆轤整形。高台貼付時周縁撫で。 内面 轆轤整形。当て具青海波文。	2面No.7
120	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(12.1)	①酸化気味 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、赤褐色粒 ④口縁部 1/8	外面 轆轤整形。胴部下方縦位鋭削り。 内面 轆轤整形。	中央東寄 2面 BE No.3
121	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(6.9)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、安山岩、砂粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。体部一部指撫で。 内面 轆轤整形。	表土一括
122	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(6.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒 ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	北側西寄 2面 AW
123	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、白色粒、雲母、褐色粒(腐れ礫) ④口縁破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。 吉井型	北側西寄表土中 1面 AW
124	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(10.5)	①酸化 ②褐色 ③片岩、長石、石英、雲母 ④胴部破片	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	中央東寄 3面 BE
125	須恵(土師質) 羽釜	口径:— 底径:— 器高:(9.0)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、チャート、長石、雲母、石英 ④胴部破片	外面 轆轤整形。胴部下方縦位鋭削り。 内面 轆轤整形。	中央東寄 3面 BE
126	縄文土器 深鉢	口・底径:— 器高:(8.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、チャート、雲母 ④口縁破片	外面 沈線区画内単節縄文。 内面 横方向磨き。	南側東寄 3面 CE No.1
127	石製品	砥石	長さ(5.4cm) 幅3.8cm 厚さ2.5cm 重さ71.15g	石材:輝石安山岩 四面とも研磨使用痕あり。	2面 CE 一括
128	石製品	白玉	長さ1.1cm 幅1.1cm 厚さ(0.7cm) 重さ1.65g	石材:滑石 片面欠損	2面 AW 一括
129	石製品	白玉	長さ1.2cm 幅1.4cm 厚さ1.2cm 重さ3.56g	石材:滑石 完形	3面No.5
130	石製品	白玉	長さ1.2cm 幅1.3cm 厚さ(0.5cm) 重さ1.00g	石材:滑石 片面欠損	2面No.9